平成15年度

薬学部授業計画

Syllabus

《共通教養科目・外国語科目》

近畿大学

目　　次

共通教養科目 ---------- 1

生涯スポーツ ---------- 45

英　　語 ---------- 105

初修外国語（ドイツ語） ---------- 155

初修外国語（フランス語） ---------- 161

初修外国語（中　国　語） ---------- 168

共通教養科目

科目	人権論 1 The Theory of Human Rights	開講年次	1	担当者	くまもと　りさ 熊本　理抄
		開講期	前期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室	507		本館 5階 (内線)2009		

1 授業概要	国内外における差別問題について丁寧に分かりやすく説明し、人権問題への扉を開きたいと思います。また、国内外において、差別を受けている被差別当事者たちが、あるいはNGOが、差別をなくすためにどんな取り組みを展開しているか、国連や国際社会、被差別当事者やNGOがいかなる人権基準を作ってきたか、などについても紹介します。なお、講義の際には、「コミュニケーションカード」を配布し、講義についての感想や意見・質問などを書いて提出していただきます。その内容に関しては、一部を紹介したり、質問に答えたりしながら、人権問題の課題や取り組みについて学習を深めるとともに、具体的な人権政策や社会のあり方、個人の生き方について受講者とともに考えていきたいと思います。
2 教科書	特に指定しません。プリントは適宜講義時に配布します。
3 参考文献	・国際人権NGOネットワーク編『ウォッチ！規約人権委員会～どこがずれてる？人権の国際基準と日本の現状』日本評論社、1999年 ・阿部浩己・今井直『テキストブック国際人権法』日本評論社、1996年 ・部落解放・人権研究所編『日本における差別と人権第4版』解放出版社、2002年 ・山崎公士『国際人権　知る・調べる・考える』解放出版社、1997年
4 関連科目	
5 試験方法	レポート
6 成績評価基準	レポート(70%)、小レポート及びコミュニケーションカードなど平常の授業への取り組み(30%)
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	随時受付。E-mail(kumamoto@msa.kindai.ac.jp)による質問も可。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　1
1	〈 項目・内容 〉 オリエンテーション 〈 到 達 目 標 〉
2	〈 項目・内容 〉 人権の国際的保障①　世界人権宣言 〈 到 達 目 標 〉
3	〈 項目・内容 〉 人権の国際的保障②　国際人権規約(1) 〈 到 達 目 標 〉
4	〈 項目・内容 〉 人権の国際的保障③　国際人権規約(2) 〈 到 達 目 標 〉
5	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム①　国連 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　1
6	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム②　条約(1) 〈 到 達 目 標 〉
7	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム③　条約(2) 〈 到 達 目 標 〉
8	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム④　その他 〈 到 達 目 標 〉
9	〈 項目・内容 〉 人権の国内的保障① 〈 到 達 目 標 〉
10	〈 項目・内容 〉 人権の国内的保障② 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　1
11	〈 項目・内容 〉 国際人権NGOの活動 〈 到達目標 〉
12	〈 項目・内容 〉 子どもの権利条約と世界／日本の子どもたち(1) 〈 到達目標 〉
13	〈 項目・内容 〉 子どもの権利条約と世界／日本の子どもたち(2) 〈 到達目標 〉
14	〈 項目・内容 〉 まとめ 〈 到達目標 〉
15	〈 項目・内容 〉 まとめ 〈 到達目標 〉

科目	人権論 1 The Theory of Human Rights	開講年次	1	担当者	くまもと りさ 熊本 理抄
		開講期	後期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室	507		本館 5階 (内線)2009		

1 授業概要	国内外における差別問題について丁寧に分かりやすく説明し、人権問題への扉を開きたいと思います。また、国内外において、差別を受けている被差別当事者たちが、あるいはNGOが、差別をなくすためにどんな取り組みを展開しているか、国連や国際社会、被差別当事者やNGOがいかなる人権基準を作ってきたか、などについても紹介します。なお、講義の際には、「コミュニケーションカード」を配布し、講義についての感想や意見・質問などを書いて提出していただきます。その内容に関しては、一部を紹介したり、質問に答えたりしながら、人権問題の課題や取り組みについて学習を深めるとともに、具体的な人権政策や社会のあり方、個人の生き方について受講者とともに考えていきたいと思います。
2 教科書	特に指定しません。プリントは適宜講義時に配布します。
3 参考文献	・国際人権NGOネットワーク編『ウォッチ！規約人権委員会～どこがずれてる？人権の国際基準と日本の現状』日本評論社、1999年 ・阿部浩己・今井直『テキストブック国際人権法』日本評論社、1996年 ・部落解放・人権研究所編『日本における差別と人権第4版』解放出版社、2002年 ・山崎公士『国際人権 知る・調べる・考える』解放出版社、1997年
4 関連科目	
5 試験方法	レポート
6 成績評価基準	レポート(70%)、小レポート及びコミュニケーションカードなど平常の授業への取り組み(30%)
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	随時受付。E-mail(kumamoto@msa.kindai.ac.jp)による質問も可。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　1
1	〈 項目・内容 〉 オリエンテーション 〈 到 達 目 標 〉
2	〈 項目・内容 〉 人権の国際的保障①　世界人権宣言 〈 到 達 目 標 〉
3	〈 項目・内容 〉 人権の国際的保障②　国際人権規約(1) 〈 到 達 目 標 〉
4	〈 項目・内容 〉 人権の国際的保障③　国際人権規約(2) 〈 到 達 目 標 〉
5	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム①　国連 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　1
6	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム②　条約(1) 〈 到 達 目 標 〉
7	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム③　条約(2) 〈 到 達 目 標 〉
8	〈 項目・内容 〉 国際人権保障システム④　その他 〈 到 達 目 標 〉
9	〈 項目・内容 〉 人権の国内的保障① 〈 到 達 目 標 〉
10	〈 項目・内容 〉 人権の国内的保障② 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　1
11	〈 項目・内容 〉 国際人権NGOの活動 〈 到 達 目 標 〉
12	〈 項目・内容 〉 子どもの権利条約と世界／日本の子どもたち(1) 〈 到 達 目 標 〉
13	〈 項目・内容 〉 子どもの権利条約と世界／日本の子どもたち(2) 〈 到 達 目 標 〉
14	〈 項目・内容 〉 まとめ 〈 到 達 目 標 〉
15	〈 項目・内容 〉 まとめ 〈 到 達 目 標 〉

科目	人権論2 The Theory of Human Rights	開講年次	1	担当者	くまもと　りさ 熊本　理抄
		開講期	後期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室	507		本館 5階 (内線)2009		

1 授業概要	国内外における差別問題について丁寧に分かりやすく説明し、人権問題への扉を開きたいと思います。また、国内外において、差別を受けている被差別当事者たちが、あるいはNGOが、差別をなくすためにどんな取り組みを展開しているか、国連や国際社会、被差別当事者やNGOがいかなる人権基準を作ってきたか、などについても紹介します。なお、講義の際には、「コミュニケーションカード」を配布し、講義についての感想や意見・質問などを書いて提出していただきます。その内容に関しては、一部を紹介したり、質問に答えたりしながら、人権問題の課題や取り組みについて学習を深めるとともに、具体的な人権政策や社会のあり方、個人の生き方について受講者とともに考えていきたいと思います。
2 教科書	特に指定しません。プリントは適宜講義時に配布します。
3 参考文献	・国際人権NGOネットワーク編『ウォッチ！規約人権委員会～どこがずれてる？人権の国際基準と日本の現状』日本評論社、1999年 ・阿部浩己・今井直『テキストブック国際人権法』日本評論社、1996年 ・部落解放・人権研究所編『日本における差別と人権第4版』解放出版社、2002年 ・山崎公士『国際人権　知る・調べる・考える』解放出版社、1997年
4 関連科目	
5 試験方法	レポート
6 成績評価基準	レポート(70%)、小レポート及びコミュニケーションカードなど平常の授業への取り組み(30%)
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	随時受付。E-mail(kumamoto@msa.kindai.ac.jp)による質問も可。
《特記事項》	※「人権論2」を受講するには、「人権論1」を履修しなければなりません。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　2
1	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権①　在日韓国・朝鮮人(1) 〈 到 達 目 標 〉
2	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権②　在日韓国・朝鮮人(2) 〈 到 達 目 標 〉
3	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権③　滞日外国人(1) 〈 到 達 目 標 〉
4	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権④　滞日外国人(2) 〈 到 達 目 標 〉
5	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑤　女性(1) 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　2
6	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑥　女性(2) 〈 到 達 目 標 〉
7	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑦　障害者(1) 〈 到 達 目 標 〉
8	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑧　障害者(2) 〈 到 達 目 標 〉
9	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑨　被差別部落(1) 〈 到 達 目 標 〉
10	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑩　被差別部落(2) 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　人　権　論　2
11	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑪　アイヌ民族(1) 〈 到 達 目 標 〉
12	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑫　アイヌ民族(2) 〈 到 達 目 標 〉
13	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑬　沖縄(1) 〈 到 達 目 標 〉
14	〈 項目・内容 〉 国際人権基準と日本の人権⑭　沖縄(2) 〈 到 達 目 標 〉
15	〈 項目・内容 〉 まとめ 〈 到 達 目 標 〉

科目	経済学 Economics	開講年次	1	担当者	にしかわ　ひろのぶ 西川　弘展
		開講期	前期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	ケインズの貨幣論
研究室	講師控室		21号館2階 (内線)2262、2263		マクロ経済学形成史

1 授業概要	現代の経済学の基礎をわかりやすく講義します。経済学は，アダム・スミス『国富論』以来ほぼ250年の歴史を持っていますが，この間のさまざまな時代的状況に直面しながら，この学問は，様々な哲学者，学者，エコノミストらによって，改良されてきました。講義では，経済学という学問の歴史的な展開に触れながら，現代流の経済学の基礎的な考え方を学びます。講義は連続して出席することで体系的に理解できるよう工夫しますので，積極的に参加してください。
2 教科書	『ハート&マインド経済学入門』林敏彦著　有斐閣アルマ　¥1，700
3 参考文献	『入門経済学(第2版)』伊藤元重著　日本評論社 『サムエルソン経済学(原書13版)　上・下』都留重人訳　岩波書店 『経済学:エコノミックな見方・考え方』市岡修著　有斐閣コンパクト
4 関連科目	
5 試験方法	(種類)定期試験 (方式)記述式(論述，用語の解説，計算問題等)
6 成績評価基準	定期試験(80%) 平常点(20%)
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	毎週の講義終了後

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞　経　　済　　学
1	＜ 項 目・内 容 ＞ 経済学入門(教科書第1章) 経済学ってなに？ 選ぶことの重さ ＜ 到 達 目 標 ＞ 経済学の目的と意義を理解する。
2	＜ 項 目・内 容 ＞ 需要と供給①(教科書第1章) 需要・供給分析の様々な事例 ＜ 到 達 目 標 ＞ 経済学の基礎的道具(ツール)である需要供給分析のさまざまな事例を学ぶ。
3	＜ 項 目・内 容 ＞ 消費と需要(教科書第2章) 消費者の選択 文化に囲まれた消費 ネットワークの中の消費 ＜ 到 達 目 標 ＞ 消費者の活動の理論を学ぶ。
4	＜ 項 目・内 容 ＞ 生産と企業(教科書第3章) 企業と利潤 独占の功罪 ＜ 到 達 目 標 ＞ 企業の活動の理論を学ぶ。
5	＜ 項 目・内 容 ＞ 需要と供給②(教科書該当章なし) 需要関数と供給関数の背後にあるいくつかの論理(諸主体の最適化行動と集計化) 弾力性 関数のシフト ＜ 到 達 目 標 ＞ 需要と供給の理論的基礎と需要と供給に関する拡張概念を学ぶ。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜科　目＞　経　済　学
6	＜項目・内容＞政府の経済活動（教科書第4章） 市場の働きを補う 所得を再分配する 安全で安定した経済の実現 政府も失敗する ＜到達目標＞政府の経済活動の現実と理論を学ぶ。
7	＜項目・内容＞マクロ経済学入門①（教科書第5章） ミクロ経済学とマクロ経済学 マクロ経済学の歴史（古典派の分配論から国民所得決定理論へ） マクロ経済学の対象 マクロ経済学の基礎的な見方（国民所得循環図とワルラス法則） GDP（定義と性質） ＜到達目標＞マクロ経済学の基礎を学ぶとともにミクロ経済学との違いについて理解する。
8	＜項目・内容＞マクロ経済学入門②（教科書第5章） 45°線図によるGDPの決定モデル GDPの決定と雇用ないし失業の関係 乗数効果 IS曲線 ＜到達目標＞財市場の理論を体系的に学ぶ。
9	＜項目・内容＞貨幣と金融①（教科書第6章） 貨幣とは何か？（機能主義的立場による定義） 貨幣の機能 貨幣供給（信用創造と中央銀行システム） ＜到達目標＞貨幣の本質を理解し，その供給メカニズムを学ぶ。
10	＜項目・内容＞貨幣と金融②（教科書第6章） 貨幣需要（2つの見方） 貨幣市場の均衡 LM曲線 ＜到達目標＞貨幣市場の理論を体系的に学ぶ。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜科　目＞　経　済　学
11	＜項目・内容＞IS・LM分析（教科書該当章なし） IS曲線，LM曲線の含意 GDPと利子率の同時決定 財政金融政策とIS曲線とLM曲線のシフト ＜到達目標＞IS・LM分析の基礎と代表的な応用例を学ぶ。
12	＜項目・内容　景気変動論（教科書第7章） 予想の間違いと経済変動 景気変動のパターン 平成14年度景気の解説 データの紹介 ＜到達目標＞景気循環論の入門的トピックスを学ぶ。
13	＜項目・内容＞経済成長論（教科書第11章） 高度成長の条件 成長の内的条件 成長政策 ＜到達目標＞経済成長論の入門的トピックスを学ぶ。
14	＜項目・内容＞まとめ（教科書該当章なし） 経済学の歴史的展望（古典派の時代から現代まで。一貫した課題は何か？） 経済学批判と経済学批判の批判 経済学の可能性 ＜到達目標＞経済学とは何か，という問題について考える。
15	＜項目・内容＞定期試験 択一式 記述式 論述式 ＜到達目標＞講義を通じて学んだことが，正確に理解できているかどうかを試験する。

科目	心理学 Psychology	開講年次	1	担当者	きしもと　よういち 岸本　陽一
		開講期	後期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室			文芸学部棟　5階(内線)3366		

1 授業概要	心理学あるいは人間心理のいろいろな現象に関する興味や関心は非常に高い。しかしながら、その関心のありか、理解の仕方は、必ずしも科学としての心理学の目指しているものとは一致していない。本講義では、人間心理に関する現象の科学的研究法や実証的成果に目を向けることで、人間の科学的理解を深める.
2 教科書	心理学の基礎　今田　寛・宮田　洋・賀集　寛(編著)《第3版》 2003　培風館 ¥1650
3 参考文献	基礎心理学講座　詫間武俊(編)　全5巻　八千代出版 現代心理学シリーズ　5　学習の心理学　今田寛　培風館 自律訓練法　A.ミアース　池見酉次郎・鶴見孝子(訳)　創元社 性格心理学ハンドブック　詫間武俊(編)　福村出版 タイプA　―性格と心臓病―　フリードマン・ローゼンマン 河野友信(監訳)　創元社
4 関連科目	
5 試験方法	(種類)　定期試験、小テスト (方法)　記述式
6 成績評価基準	定期試験(80%) 小テスト(20%)
7 授業評価実施方法	13回授業終了時に15分程度で実施する.
8 オフィスアワー	水曜日3時限 kishimoto@msa.kindai.ac.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 心　理　学
1	〈 項 目・内 容 〉心理学の方法・対象・諸領域 心理学の学問領域、その研究方法、そしてその対象について述べる。 〈 到 達 目 標 〉
2	〈 項 目・内 容 〉学習1　生得的な行動と学習された行動について理解する。 われわれはことばを話し、難問に直面するとその解決の糸口を考え、問題を解決する。 集団の中では、他人と協調しながらうまく生きているが、これらは学習の結果である。 4回に分けて、学習現象の基本法則を概観し、その法則(理論)が教育場面や臨床場面でどのように応用されているか概説する. 〈 到 達 目 標 〉
3	〈 項 目・内 容 〉学習2 古典的条件づけ 古典的条件づけによる行動の獲得を理解する。 〈 到 達 目 標 〉
4	〈 項 目・内 容 〉学習3 オペラント条件づけ オペラント条件づけによる行動の獲得を理解する。 〈 到 達 目 標 〉
5	〈 項 目・内 容 〉学習原理の応用 学習理論が教育場面や臨床場面でどのように応用されているかを概観する。 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜科　目＞　心　理　学
6	＜項目・内容＞動機づけ1 学習は、人や動物が経験によって行動をどのようにして変容させていくかを問題にしたが、ここでは、行動に関するなぜの問題(なぜ人は山に登るのか。なぜ人は不安な時に、誰かそばにいてほしいのかなど。)を取り上げる。 人や動物の行動を駆り立て、方向付け、その強さや持続性を決定する内的なメカニズムについて解説する。 ＜到達目標＞
7	＜項目・内容＞動機づけ2　生得的動機 生得的な動機(生理的動機、内因性動機)を解説する。 ＜到達目標＞
8	＜項目・内容＞動機づけ3　社会的動機 獲得された動機(達成動機、親和動機)を解説する。 ＜到達目標＞
9	＜項目・内容＞動機づけ4　欲求阻止 行動が何らかの障害によって阻止され、結果として動機の満足が妨げられている状態をフラストレーションというが、その原因とそこで生じる典型的な行動を考える。 ＜到達目標＞
10	＜項目・内容＞パーソナリティ1　パーソナリティの記述 これまでは、人や動物の行動に関する一般法則や原理を見てきた。しかしながら、われわれは、同じ状況におかれても同じ行動をするとは限らない．人それぞれの行動の仕方には各人各様の個人差がある。個人差をどう記述するのか、どう測定するか、それらはどのように発達するのかを概観する。 まず、類型論を概観する。 ＜到達目標＞

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　心　理　学
11	〈 項 目 ・ 内 容 〉パーソナリティ2　特性論 パーソナリティを特性で記述する方法（特性論）について概説する。 〈 到 達 目 標 〉
12	〈 項 目 ・ 内 容 〉パーソナリティ3　類型論と特性論 見出された特性をどう測定するかについて解説する。 類型論と特性論の比較とまとめ。 〈 到 達 目 標 〉
13	〈 項 目 ・ 内 容 〉パーソナリティ4　パーソナリティの測定 個人差をどう測定するか（パーソナリティ・テストの原理）を理解する。 〈 到 達 目 標 〉
14	〈 項 目 ・ 内 容 〉パーソナリティ5　いろいろなパーソナリティ・テスト パーソナリティを測定する方法について、具体例を示すとともに、それらの特徴について概説する。 〈 到 達 目 標 〉
15	〈 項 目 ・ 内 容 〉定期試験 学習した内容に関する総合的な問題出題する。 〈 到 達 目 標 〉

科目	倫理学 Ethics	開講年次	1	担当者	しろうず　しろう 白水　士郎
		開講期	前期		
		単位数	2		
区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	医学・生命科学の現状と生命観の再構築
研究室			文芸学部新館　6階　(内線)3395		

1 授業概要	脳死・臓器移植や体外受精、出産前診断、安楽死など、生命と死を操作するテクノロジーの現状と問題点について、ビデオ教材なども用いて理解を広げながら、新しい時代に求められる生命観・死生観、社会の中の科学技術について、考えを深める。
2 教科書	特に定めない
3 参考文献	ピーター・シンガー「生と死の倫理」(樫則章訳、昭和堂) ルース・ハッバード「遺伝子万能神話をぶっとばせ」(佐藤雅彦訳、東京書籍) 森岡正博「脳死の人」(法蔵館)
4 関連科目	
5 試験方法	定期試験(講義の最終回に行う予定)
6 成績評価基準	定期試験(　80%)　臨時試験(　0%) レポート(　0%) 出席状況(　10%)　受講態度(　0%)
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	火曜日　4限　(上記、白水研究所) メールアドレス：shirouzu@nyc.odn.ne.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 倫　理　学
1	〈 項目・内容 〉 導入：生命倫理学の考え方 〈 到 達 目 標 〉
2	〈 項目・内容 〉 生命の尊厳とは何か　②安楽死と終末期医療 〈 到 達 目 標 〉
3	〈 項目・内容 〉 生命の尊厳とは何か　②生命の質（QOL）の考え方 〈 到 達 目 標 〉
4	〈 項目・内容 〉 生命の尊厳とは何か　③映像教材とまとめ 〈 到 達 目 標 〉
5	〈 項目・内容 〉 生と死の境界　①脳死とは何か 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 倫　理　学
6	〈 項目・内容 〉 生と死の境界　②臓器移植の歴史、現状、問題点 〈 到 達 目 標 〉
7	〈 項目・内容 〉 生と死の境界　③映像教材のまとめ 〈 到 達 目 標 〉
8	〈 項目・内容 〉 産むこと、産まないこと　①胎児と「人格」 〈 到 達 目 標 〉
9	〈 項目・内容 〉 産むこと、産まないこと　②出生前診断と選択的妊娠中絶 〈 到 達 目 標 〉
10	〈 項目・内容 〉 産むこと、産まないこと　③優生思想の歴史と教訓 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 倫　理　学
11	〈 項目・内容 〉 産むこと、産まないこと　④まとめ：生殖の権利と障害者の人権 〈 到 達 目 標 〉
12	〈 項目・内容 〉 ヒトゲノム時代の倫理・社会　①遺伝子解析の現状と展望 〈 到 達 目 標 〉
13	〈 項目・内容 〉 ヒトゲノム時代の倫理・社会　②「生まれ」か「育ち」か：遺伝子決定論のわな 〈 到 達 目 標 〉
14	〈 項目・内容 〉 ヒトゲノム時代の倫理・社会　③「新しい優生学」再考：遺伝管理社会に抗して 〈 到 達 目 標 〉
15	〈 項目・内容 〉 定期試験 〈 到 達 目 標 〉

科目	日本国憲法 Japanese Constitutional Law	開講年次	1	担当者	うらかわ　しょうじ 浦川　章司
		開講期	後期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室	講師控室		21号館2階 (内線)2262,2263		

1 授業概要	国家の基本法である憲法すなわち日本国憲法の基本原理は、政治・社会の基礎を構成するものであり、我々の生活と密接な関係をもっています。すなわち憲法は、一方で政治の仕組みや活動の指針として国の政治を管理し、一方で我々国民の社会生活における自由や生活を守っています。そこで我々は、憲法を正しく理解し憲法を生活の中で生かしていくことが重要になってくるのです. 本講義においては、日本国憲法の基本理念・原理について解説し、憲法の基礎的知識を修得し憲法と我々の生活との係わりについて考察することを目的としています。
2 教科書	開講時に指示します。
3 参考文献	適宜指示します。
4 関連科目	
5 試験方法	筆記試験
6 成績評価基準	定期試験(70%)、小テスト・出席等(30%)で総合的に評価します。
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞　日 本 国 憲 法
1	＜ 項目・内容 ＞　憲法と現代社会 憲法は,現代社会における法体制を構成する根本規範であり、憲法を基点にして法律・政令・条例などの種々の法規範が構成されている。それゆえ憲法は、その社会において生活している我々と密接な関係をもっている。そこで我々は、憲法が正しく運用されているかなど、憲法を身近なものとして考え、我々の生活のなかに憲法を生かしていくことが重要になってくる。 はじめに憲法と我々の生活との関係を理解し、憲法の基礎的知識の修得の必要性、憲法を学習する必要性を学習する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 憲法と我々の社会生活との係わりおよび憲法を学習する意義について理解すること。
2	＜ 項目・内容 ＞　日本国憲法の成立 日本国憲法がどのような過程で成立し、その成立過程においてどのような問題点があったのかについて解説する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 明治憲法(大日本帝国憲法)から日本国憲法への成立過程、その成立にかかわる諸問題を理解し日本国憲法の特質を把握すること。
3	＜ 項目・内容 ＞　日本国憲法の基本原理 日本国憲法の基本原理として、国民主権主義、象徴天皇制、基本的人権尊重主義、権力分立主義、平和主義などを挙げることができるが、国民主権主義、基本的人権尊重主義、平和主義は日本国憲法の三大原則として最も重要なものである。そこで、この三大原則について解説する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 日本国憲法の基本原理を理解すること。
4	＜ 項目・内容 ＞　基本的人権総論 基本的人権とは、国民各人が、人間として生活し、国家の一員とし活動するために当然に認められなければならない基本的な権利の総称を意味し、普遍性・固有性・不可侵性・永久性という特性を有している。そこでこのような特性を有する基本的人権の性格とその根拠、基本的人権の享有主体、基本的人権と公共の福祉との関係について解説する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 基本的人権の性格および一般的原則について理解すること。
5	＜ 項目・内容 ＞　幸福追求権 憲法13条の保障する「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」は、幸福追求権と呼ばれ、社会の変化に伴い生じる「新しい人権」の根拠とされているものである。そこで幸福追求権を主観的権利として認めうるのか、その内容(プライバシーの権利、環境権、自己決定権)はいかなるものなのかについて学習する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 幸福追求権の意義および内容について理解すること。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　日 本 国 憲 法
6	〈 項目・内容 〉　法の下の平等 憲法14条は「法の下の平等」について規定し、さらに24条、26条、44条においても平等権と差別禁止について規定しているが、平等権とはどういうものか、平等権の歴史的確立過程、憲法がどのような平等をどのように実現しようとしているのかなどについて学習する。 〈 到 達 目 標 〉 憲法14条の「法の下の平等」についての基本的な理解を修得すること。
7	〈 項目・内容 〉　精神生活と人権① 憲法は精神的自由権として、思想・良心の自由(19条)、信教の自由(20条)、表現の自由(21条)、学問の自由(23条)を保障しているが、この精神的自由権の意義と種類およびその限界について学習する。ここでは、内心における精神活動の自由として、思想・良心の自由と信教の自由について考察する。 〈 到 達 目 標 〉 思想・良心の自由の保障の意義、信教の自由と政教分離原則を把握すること。
8	〈 項目・内容 〉　精神生活と人権② ここでは、主に表現の自由の意義、表現の自由をめぐる諸問題、国民の知る権利について考察する。 〈 到 達 目 標 〉 表現の自由の意義、表現の自由の限界、国民の知る権利について理解する。
9	〈 項目・内容 〉　経済的活動と人権 憲法は22条で居住・移動の自由、職業選択の自由、外国移住・国籍離脱の自由を、29条で財産権の保障といういわゆる経済的自由権を保障しているが、現代においては精神的自由権と比較すると公共の福祉のもとでより強い制約を受けているのは、なぜだろうか。ここでは、経済的自由権の意義と種類および公共の福祉のもとでの制約について解説する。 〈 到 達 目 標 〉 経済的活動の自由の意義とその制限についての基本的な理解を修得すること。
10	〈 項目・内容 〉　人身の自由と適正手続保障 身体を不当に拘束されない自由を人身の自由といい、憲法は18条、31条、33～39条の諸規定において人身の自由を保障している。特に、適正手続について定める憲法31条は、国民の権利・自由を手続の観点から保護することを目的としている。ここでは、特に憲法31条の存在意義とその内容について考察する。 〈 到 達 目 標 〉 人身の自由がどのように保障されているのかについて理解すること。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　日 本 国 憲 法
11	〈 項 目・内 容 〉　社会権 日本国憲法の規定する社会権、すなわち生存権(25条)、教育を受ける権利(26条)、勤労の権利(27条)、労働基本権(28条)について、具体的問題状況に即して考察する。 〈 到 達 目 標 〉 社会権の意義と内容について理解すること。
12	〈 項 目・内 容 〉　裁判を受ける権利と裁判所 日本国憲法は国務請求権(受益権)として、請願権(16条)、裁判を受ける権利(32条)、国家賠償請求権(17条)、刑事補償請求権(40条)を規定しているが、これらの権利は基本的人権をより一層擁護するものといわれている。ここでは特に裁判を受ける権利(32条)の意義・内容と裁判所の組織・権限、違憲審査制と憲法訴訟について考察する。 〈 到 達 目 標 〉 裁判を受ける権利の意義・内容および司法権の意義と司法権の帰属主体である裁判所の組織・権限について理解すること。
13	〈 項 目・内 容 〉　国民の政治参加と政治制度 国民主権原理は、国民の政治参加の権利いわゆる参政権の保障を不可欠としており、その代表的なものが選挙権であるが、その法的性質はどのようなものであろうか。政治参加の権利として他にどのような権利を有するのか。また、わが国の政治制度はどのような特徴があり、どのような問題が存在しているのかについて学習する。 〈 到 達 目 標 〉 国民主権と参政権および統治機構について理解すること。
14	〈 項 目・内 容 〉　地方自治と分権 日本国憲法は地方自治を制度として確立しているが、その必要性はどこにあるのか。また、地方自治法の改正により、独自に地方が行う仕事が増えているのは、なぜだろうかについて考察する。 〈 到 達 目 標 〉 地方自治の本旨、国と地方との関係について理解すること。
15	〈 項 目・内 容 〉　定期試験 講義において学習した各事項について、いかに理解しているのをチェックするための筆記試験を行う。 〈 到 達 目 標 〉

科目	日本語表現法 Expression in Japanese	開講年次	2	担当者	かとう ひさお 加藤 尚雄
		開講期	後期		
		単位数	2		

	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室	講師控室		21号館2階 (内線)2262,2263		

1 授業概要	薬剤師の職場は広範で専門性が求められる。 製薬企業の中では研究から営業に至るまでほとんどの職種で、病院や調剤薬局では、医師をはじめ看護師・臨床検査技師等の人たちとともに、チーム医療に携わっている。 また行政関連の職場では、許認可や査察或いは地域医療計画など医療全般に渡って、その進捗や監視をする薬事行政を行なっている。 このように薬剤師は組織の中で仕事をしており、そのために人と人との円滑なコミュニケーションが重要である。 その基本は言葉と文章である。 正しい言葉使いや読みやすい文章は、その人の人格や能力を表現するといっても過言ではない。したがって授業では、話し方、文章の書き方、レポート・論文の書き方などを勉強し、より豊かな表現力を身につける。
2 教科書	「日本語表現法」三省堂
3 参考文献	「医療・医薬品業界の一般知識」じほう社
4 関連科目	臨床薬学
5 試験方法	期末テスト
6 成績評価基準	出席状況(70%)、期末テスト(30%)
7 授業評価実施方法	レポートの提出
8 オフィスアワー	随時(講義中)

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞　日 本 語 表 現 法
1	＜ 項 目・内 容 ＞ 日本語を知ろう 1、日本語の歴史 2、日本語の曖昧さ 3、日本語の特質 4、注意すべき表現 ＜ 到 達 目 標 ＞
2	＜ 項 目・内 容 ＞ 話しことばと書きことば 1、文体 2、語句の選択 3、日本語の文字体系 4、符号、記号の使い方 5,病院薬局におけるコミュニケーション ＜ 到 達 目 標 ＞
3	＜ 項 目・内 容 ＞ 敬語について 1、待遇表現 2、敬語の種類 3、間違いやすい敬語 4、病院薬局におけるコミュニケーション ＜ 到 達 目 標 ＞
4	＜ 項 目・内 容 ＞ 文章を書く 1、文章を書くとは 2、文章の種類 3、文章の型 4、案内文の書き方 5、調剤薬局におけるコミュニケーション ＜ 到 達 目 標 ＞
5	＜ 項 目・内 容 ＞ 手紙の書き方 1、縦書きと横書き 2、手紙を書くときの注意点 3、調剤薬局におけるコミュニケーション ＜ 到 達 目 標 ＞

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科 目 〉　日 本 語 表 現 法
6	〈 項 目 ・ 内 容 〉レポートの書き方 1、レポートという文章　2、付された条件と内容 2、レポートのまとめ方 3、製薬企業における薬剤師の役割 〈 到 達 目 標 〉
7	〈 項 目 ・ 内 容 〉論文はどう書くか 1、オリジナリティ 2、論文のテーマ 3、先行研究の整理・検討 4、論文の書式 5、製薬企業における薬剤師の役割 〈 到 達 目 標 〉
8	〈 項 目 ・ 内 容 〉話し方を知る 1、エントリーシートの書き方 〈 到 達 目 標 〉
9	〈 項 目 ・ 内 容 〉話し方を知る2 1、わかりやすい話とは 2、発話の流れを想定する 3、話しことばを振り返る 4、適切な話し言葉を使うために 〈 到 達 目 標 〉
10	〈 項 目 ・ 内 容 〉口頭発表について 企業入社試験と面接対応 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　日本語表現法
11	〈 項目・内容 〉討議・会議のあり方 1、実りある討議とは 2、討論参加者の役割 〈 到達目標 〉
12	〈 項目・内容 〉おかしな日常語 1、間違ったことば使い 〈 到達目標 〉
13	〈 項目・内容 〉四字熟語 四字熟語を覚えよう 〈 到達目標 〉
14	〈 項目・内容 〉小論文の書き方 就職のためのエントリーシートの書き方 〈 到達目標 〉
15	〈 項目・内容 〉面接について 入社試験の面接対応策 〈 到達目標 〉

科目	社会福祉論 Social Welfare	開講年次	2	担当者	たかくわ　けいこ 高桑　慧子
		開講期	後期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	社会人文科学	研究テーマ	
研究室	講師控室	21号館2階 (内線)2262,2263			

1 授業概要	社会経済の変化と共に、私達の生活も不断に変化してきた。特に昭和30年代からの経済の高度成長は生活の高度化・都市化を推し進め、経済的繁栄は豊かな生活を享受することになったが、同時に国民生活も複雑・多様化し生活のさまざまな局面に矛盾やゆがみを生じた。それに応じて、時代的要請による新たな社会福祉を促す契機となった。1970年以降の経済は、衰退と繁栄そして又衰退といった経済社会情勢の変化の中で、人々の生活は複雑・多様化するに伴い、社会福祉のニーズも一層多様化・拡大・高度化してきた。 そして今日、社会福祉サービスの提供が国民すべてに広く求められている。激動期にある社会福祉の状況に対応するために基本的な知識と幅広い視野を獲得することをねらいとする
2 教科書	・社会福祉概論、鈴木幸雄　佐藤秀樹　岡村順一、2001年、中央法規
3 参考文献	・新社会福祉学、足立叡　佐藤俊　宮本和彦編、2001年、中央法規 ・改訂社会福祉概論、西村昇　江戸正国、2001年、中央法規 ・社会福祉要論、今泉礼右編　1999年、中央法規 ・社会福祉実践とアドボカシー、西尾祐吾　清水孝則、2000年、中央法規 ・精神障害者への偏見とスティグマ、白石大介　2000年、中央法規 ・こころの病 1,2、全国精神障害者　家族会連合会　、1999年、中央法規 ・知的障害者の人権を守るために　監修　厚生省大臣官房障害保健福祉部障害福祉課　1999年、中央法規 ・老年看護学⑲、中島紀恵子他、医学書院 ・看護学入門、看護の倫理　患者の心理、佐藤トミ他　メデカルフレンド
4 関連科目	
5 試験方法	・(種類) 定期試験　小テスト　その他 ・(方式) 記述式、レポート
6 成績評価基準	・評価対象項目と比率 定期試験(60％)　小テスト(20％)　レポート(10％)　出欠状況(10％)
7 授業評価実施方法	基本的には単元の中間と終わりに小テストを行う。
8 オフィスアワー	・各講義終了後　1～2時間程度、個室にて対応。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　社 会 福 祉 論
1	〈 項 目・内 容 〉　社会福祉の意義と目的 1)社会福祉とは (1)福祉の用語と意味と推移 (2)広義の福祉と狭義の社会福祉 2)日本国憲法と社会福祉 3)社会福祉の理念 (1)基本的人権思想の歩み (2)生存権の保障と幸福に生きる権利 (3)ノーマライゼーションの理念メント 4)新しい理念 ①権利擁護 ②自立支援 ③エンパワー 〈 到 達 目 標 〉
2	〈 項 目・内 容 〉社会福祉を取り巻く環境の変化 1)少子・高齢社会の到来 2)家族の変容一核家族の進行とそれに伴う課題
3	〈 項 目・内 容 〉社会福祉を取り巻く環境の変化 3)地域社会の変化 (1)都市における問題 (2)農村部における問題 4)現代の社会福祉問題の特徴と課題 (1)新たな生活問題の発生 (2)子ども 高齢者 障害者を者を取り巻く社会福祉の課題 〈 到 達 目 標 〉
4	〈 項 目・内 容 〉社会福祉の史的展開 1)欧米の社会福祉のあゆみ イギリス、アメリカ、スウェーデン 2)日本の社会福祉のあゆみ (1)古代から近世 (2)近世以降:社会事業成立以前と以降 (3)戦後 ①戦後の復興と福祉の近代化 ②高度経済成長と社会ニーズの多様化 ③福祉見直しから本格的な福祉改革の時代へ 〈 到 達 目 標 〉
5	〈 項 目・内 容 〉社会福祉制度と援助活動 1)社会福祉組織と体系 (1)社会福祉法制の体系 (2)社会福祉行政の組織 (3)社会福祉事業と組織 (4)社会福祉財政の組織 2)近代社会の社会福祉ニーズの変化とサービスの供給体制 3)福祉ニーズの把握方法 (1)福祉ニーズとは何か (2)福祉ニーズの把握方法と判定基準 4)社会福祉サービスの概観 (1)児童福祉 (2)障害者福祉:身体障害者、知的障害者、精神障害者 (3) 高 齢 者 福 祉 〈 到 達 目 標 〉

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞　社 会 福 祉 論
6	＜ 項 目・内 容 ＞ 高齢者福祉 1)老年人口の増加
7	2)高齢者の特徴--老化に伴う心身の機能の変化と健康上の問題 3)要介護高齢者の増加と福祉政策　ゴールドプラン21 、福祉の計画 ＜ 到 達 目 標 ＞
8	＜ 項 目・内 容 ＞ 障害者福祉 1)精神障害者福祉　(1)障害の概念　(2)西欧・日本における精神医療史　(3)精神医療体制の動向　(4)精神障害者の社会復帰を阻む要因　(5)今後の課題と展望
9	2)知的障害者福祉　(1)知的障害の特性とその理解　(2)知的障害者への権利侵害　(3)今後の課題と展望 ＜ 到 達 目 標 ＞
10	＜ 項 目・内 容 ＞ 社会福祉施策の動向 1)福祉行政の地方分権化とサービスの総合化・統合化 2)福祉供給システムの多元化 3)福祉の計画　ゴールドプラン21　障害者プラン 4)権利擁護システム　(1)地域福祉権利擁護事業　(2)成年後見制度 ＜ 到 達 目 標 ＞

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　社 会 福 祉 論
11	〈 項 目・内 容 〉障害者の権利擁護 1)アドボカシーを必要とする人の社会的背景 (1)高齢者 (2)知的障害者 (3)精神障害者 その他 2)人権侵害の具体的事例とその予防 〈 到 達 目 標 〉
12	〈 項 目・内 容 〉障害者の権利擁護 3)地域福祉権利擁護事業 4)成年後見制度 〈 到 達 目 標 〉
13	〈 項 目・内 容 〉医療における倫理と患者の理解 1)医療における倫理 (1)人間関係のルールとしての倫理 (2)人間関係の成立発展のための基本的ルール 〈 到 達 目 標 〉
14	〈 項 目・内 容 〉医療における倫理と患者の理解 (3)現代医療と医の倫理 生命倫理 インフォームドコンセントと自己決定権 〈 到 達 目 標 〉
15	〈 項 目・内 容 〉医療における倫理と患者の理解 (4)援助の場で生じがちな倫理上の問題点の実際 〈 到 達 目 標 〉

科目	基礎数学 Basic mathematics	開講年次	1	担当者	キグチ マサヨシ 木口 勝義
		開講期	前期		
		単位数	2		
区分	共通教養科目	分類	自然科学	研究テーマ	理論宇宙物理学
研究室	理工学総合研究所物理学		15号館 3階 (内線) 4708		

1 授業概要	高校で学んだ数学が自在に使えるよう、その理解を深めます。 高校数学の教科書には社会人が論理的な思考をするための貴重な知識が明確な日本語で論理的に記述されています。しかし、高校生にとっては前面に受験が立ち塞がり、数学の核心部の理解がマークシート方式の得点獲得技術と相容れないという現実により、重要な部分の理解がなおざりにされがちです。この講義では、論理的な思考とその日本語による表現という、受験体制のなかでなおざりにされがちな部分に焦点をあわせます。
2 教科書	特に指定しません。
3 参考文献	高校の教科書、数学I, 数学II, 数学III, 数学A, 数学B, 数学Cを手元に置いてください。私が参照している教科書は、 山本芳彦編, 啓林館版、 藤田宏・前原昭二編、東京書籍版、 永尾汎他編、数研出版株式会社版 です。
4 関連科目	数学
5 試験方法	定期試験(記述式) 解答が明確で論理的な日本語で記述されているかどうかを評価します。最終結果が正しくても、どこから導かれたかが不明な答案は評価しません。
6 成績評価基準	定期試験 70%, 出席状況30%
7 授業評価実施方法	授業回数13回時に予定。
8 オフィスアワー	火曜日3限 15号館3階木口研究室 e-mail は随時受け付け e-mail: kiguchi@rist.kindai.ac.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　基　礎　数　学
1	〈 項 目・内 容 〉 微分の意味・積分の意味 無限小に位数が付けられるという事実はこの300年間の数学の最大の発見です。これをうわまわる発見は古代における数の発見くらいしかありません。無限小に順位が付けられるため、十分に小さい領域では一次関数(接線)のみを調べればよいことになります。この事実がどう応用されるかを学びます。 〈 到 達 目 標 〉微分積分の概念を獲得する。
2	〈 項 目・内 容 〉 微分計算の技術 よい数学はその意味を理解していなくても機械的に計算すればその意味を体現してくれるという利点があります。この意味で計算ができるとことは重要です。そこで、学生が一番躓きやすい合成関数の微分を中心に計算技術を復習します。 〈 到 達 目 標 〉微分の計算ができるようになる。
3	〈 項 目・内 容 〉 積分計算の技術 置換積分、部分積分を中心に、積分の計算技術を復習します。 〈 到 達 目 標 〉積分の計算ができるようになる。
4	〈 項 目・内 容 〉 スケール不変性と対数 大きさに比例した変化を考えると自然と対数概念に導かれます。したがって対数はスケールによらない法則を考察するとき威力を発揮します。基本法則にはスケールがありませんから、科学的に物事を考えるときには、対数目盛りのグラフを書いて考えることが必須になります。 〈 到 達 目 標 〉指数関数が使えるようになる。
5	〈 項 目・内 容 〉 弧度法と三角関数 弧度は円周の周長さと半径の比で定義され、したがって単位がない量です。この弧度を使うと、角度とはなんの関係もない抽象的な量に三角関数が使えるようになります。 〈 到 達 目 標 〉三角関数が使えるようになる。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　基　礎　数　学
6	〈 項目・内容 〉 科学的推論と確率 客観的ベイズ統計の立場から確率を論じます。この立場では、確率はよくわかっていない命題に対する厳密な推論規則になります。 〈 到 達 目 標 〉確率概念を獲得する。
7	〈 項目・内容 〉 ベイズ確率の計算 高校の教科書にしたがって、確率にたいする積の法則、和の法則、無差別の法則の使い方を復習します。 〈 到 達 目 標 〉確率計算ができるようになる。
8	〈 項目・内容 〉 整数の割り算 ユークリッドの互除法を使って、整数の整数による割り算の余りの性質を調べます。 〈 到 達 目 標 〉整数に深い性質のあることを知る。
9	〈 項目・内容 〉 多項式の割り算 多項式は整数とまったく同じ性質を持っています。整数の割り算と同じように多項式の割り算の余りによって新しい数が定義できます。複素数もこのようにして定義されます。このようにして現れる数の性質を調べます。 〈 到 達 目 標 〉多項式の取り扱いに慣れる。
10	〈 項目・内容 〉 複素数 複素数は現代の科学で必要不可欠な数です。たとえば、基本的な物理法則である量子法則は複素数の数としての構造を使わなければ表現できません。この複素数の構造について復習します。 〈 到 達 目 標 〉複素数が使えるようになる。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉　基　礎　数　学
11	〈 項 目・内 容 〉 多変数多項式と式の整理 多変数の多項式は各項をどのような順序で整理するかを考えることが本質的になります。並べ方によって割り算の仕方が変わるからです。式を整理し、割り算の余りが多項式たちによる割り算の順序によらないようにすることで、いろいろな問題の答えが見つかります。ここでは計算機をもちいて、いろいろな問題を解いてみます。 〈 到 達 目 標 〉計算目的にあった式の整理ができるようになる。
12	〈 項 目・内 容 〉 対称性の破れと高次方程式の解 解と係数の関係は解の置換に対して不変（対称）です。解を求めることはこの対称性を破ることです。三次方程式、四次方程式に対して、どのように対称性を破ることができるかを調べます。 〈 到 達 目 標 〉代数方程式の解法が幾何学的なものであることを理解する。
13	〈 項 目・内 容 〉 個数の処理と写像 個数を数を使って数えられることは5000年の数学の歴史で最大の発見です。ここには概念のカテゴリー化と脱カテゴリー化という、あらゆる理論構成に必要とされる高度に抽象的な思考方法の雛形があります。そこにどのような仕組みがあるのかを写像の働きの観点から調べます。 〈 到 達 目 標 〉抽象的に個数の計算ができるようになる。
14	〈 項 目・内 容 〉 選択、決定と写像の割り算 写像の働きを使って数学概念を表現することが現代数学の基本手段です。ここでは左逆写像と右逆写像がどのような働きをしているかを調べます。 〈 到 達 目 標 〉写像の働きを理解する。
15	〈 項 目・内 容 〉 定期試験 〈 到 達 目 標 〉

科目	自然環境論 Natural Environment	開講年次	1	担当者	かわさき　なおひと 川﨑　直人
		開講期	後期		
		単位数	2		

区分	共通教養科目	分類	自然科学	研究テーマ	環境ホルモンの除去
研究室	公衆衛生学		16号館3階（内線）3867		廃棄物の再資源化

1 授業概要	ヒトは、火を発見して以来、自然にある様々な物質を生活の中に取り入れ、自然をヒトにとって都合のよい環境に変化させ、豊かな社会、幸福な生活を手に入れてきた。一方、それとは引き替えに予想外の環境悪化、経済の不均衡、倫理の荒廃などの社会問題を抱え込んでしまった。ヒトの生存は他の生命体の存在に依存しており、きれいな水、空気、土壌およびエネルギーをも必要としている。身近な環境を維持することは、ヒトの生存に不可欠にもかかわらず、今日、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物の種の減少、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、発展途上国の公害問題などの地球環境問題も深刻な状況になってきている。 環境を正しく認識するために、日本および地球規模の環境問題の現状を概説し、今世紀における環境の考え方、環境倫理などについて学習する。
2 教科書	「環境科学要論　現状そして未来を考える」 世良　力　著（東京化学同人）
3 参考文献	「やさしい環境科学」 保田　仁資　著（化学同人） 「生態系と地球環境のしくみ」 大石　正道　著（日本実業出版社）
4 関連科目	公衆衛生学1、公衆衛生学2
5 試験方法	臨時試験（11月）　定期試験（1月下旬） 各試験ともに論述形式・客観形式
6 成績評価基準	定期試験（50%） 臨時試験（30%） 出席状況（20%）
7 授業評価実施方法	実施時期（授業回数　第13回時） 所要時間（15分程度）
8 オフィスアワー	随時 e-mail: kawasaki@phar.kindai.ac.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜科　目＞　自然環境論
1	＜項目・内容＞講義に関する全般的解説 環境科学の目的と環境問題 環境科学の目的を明らかにするとともに3E(Economy, Energy, Environment)の調和の重要性を理解する。また、人間活動による環境破壊問題の総合的最適化を目指し努力することの必要性について考究する。さらに、環境問題への取り組み、解決のために必要な原因の究明、問題の拡散課程などを把握し、根治療法的対策の重要性を修得する。 ＜到達目標＞環境科学の目的と環境問題への取り組みおよび原因を理解する。
2	＜項目・内容＞人口と食糧問題 世界的な問題としては、人口爆発、経済格差の拡大、宗教紛争などのほか、食糧不足、資源の枯渇が挙げられる。特に、食糧不足および資源の枯渇問題は、人口問題と関連が大きく、さらに人口問題は食糧問題に起因する。ここでは、世界の人口の現状、世界の食糧問題として農地の増加状態、農地の生産力、農業技術、食糧生産の地域格差、日本の人口と食糧事情などについて講義する。 ＜到達目標＞世界人口と食糧問題との関わりを理解する。
3	＜項目・内容＞資源、エネルギーと環境 ヒトの生活レベルを向上するには、生活資材の増産、雇用の確保なども必要であり、このためには産業の振興、経済の発展が不可決である。しかし、エネルギー消費、特に化石燃料の消費の増加は、資源の枯渇問題のみではなく、地域の大気汚染、地球温暖化などの環境問題とも密接に関わっている。ここでは、エネルギーの不足問題、世界または日本のエネルギーと環境との関係などについて講義する。 ＜到達目標＞エネルギー需要および生産と環境との関わりを理解する。
4	＜項目・内容＞自然の浄化作用と環境汚染物質 地球上にある物質の要素、すなわち炭素、窒素、酸素などの元素は、物質不滅の法則にしたがって循環している。元素の量は一定であるが、それらは化合物、生物などとして形を変え、移り変わっている。人間活動の結果、発生する廃棄物や環境汚染物質も自然の分解・浄化を経て大気、水、土壌圏内を循環している。ここでは、環境汚染物質および人工有害物質の自然浄化作用について講義する。 ＜到達目標＞人工有害物質と環境汚染物質の自然浄化作用を理解する。
5	＜項目・内容＞日本の公害とその防止 日本では1950年代から急速な経済発展を遂げ、その引き替えに全国各地で大規模な公害問題、例えば、水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、カネミ油症、瀬戸内重油流出事件、ヘドロ公害などが発生した。ここでは、日本の公害、環境関連事故の歴史とその発生原因、公害防止技術、公害防止の四原則(原因・発生源の抑制、発生量の抑制、原因物質の拡散防止、汚染物質の無害化)について講義する。 ＜到達目標＞日本の過去における公害とその防止策を理解する。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞　自 然 環 境 論
6	＜ 項 目・内 容 ＞ 大気の環境 産業および文明の発展に伴い工場、発電所、自動車などから種々の大気汚染物質が排出されている。大気の環境基準は、「人間の健康を保護するうえで維持されることが望ましい基準」として法的規制されている。ここでは、日本において環境基準が定められている8種類のうち二酸化窒素、二酸化硫黄、一酸化炭素、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質の5種について、発生源、生態系への影響、測定法、現状などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 大気汚染によるヒトへの影響とその防止策を理解する。
7	＜ 項 目・内 容 ＞ 臨時試験 第1回から第6回までの講義内容について記述形式で臨時試験を行う。 ＜ 到 達 目 標 ＞
8	＜ 項 目・内 容 ＞ 水の環境 環境水中に汚濁物質が流入すると、環境圏内で複雑に絡み合いながら、ヒトを含めて多くの生物に大きな影響を及ぼすため、水の環境の保全には万全の努力を払わなければならない。ここでは、水質汚濁、水質汚濁物質と健康障害、水の環境基準、水質汚濁の概況（河川、湖沼、閉鎖性水域、海水、地下水の汚染）、水質浄化対策（水質汚濁物質の排出削減、排水処理法、下水処理、終末処理）などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 水質汚濁によるヒトへの影響とその防止策を理解する。
9	＜ 項 目・内 容 ＞ 土壌の環境 大地の状況に関する環境変化には、自然現象およびヒトの開発行為を原因とするものがある。土壌の質的環境に関しては人為的要因による農地の地力減退、土壌汚染などがある。大地は、大気圏、水圏と相互に関連して存在しているため、土壌の環境は大気汚染や水質汚濁とも関係が深い。ここでは。土壌生成と喪失、土壌汚染、土壌汚染防止策、地盤沈下、地盤の液状化現象などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 土壌汚染によるヒトへの影響とその防止策を理解する。
10	＜ 項 目・内 容 ＞ 廃棄物とリサイクル ヒトの過剰な活動の結果、豊かな物質文明が実現できたが、その反面、大量に排出される廃棄物の山がヒトの社会活動の支障となり始めている。明るい21世紀にするためには、大量生産、大量消費、大量廃棄の消費型社会より脱却することが必要である。ここでは、廃棄物の現状と分類、ゴミの収集と焼却処理、最終処分場、廃棄物のリサイクルなどについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 消費型社会における問題点と循環型社会の構築を理解する。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞　自 然 環 境 論
11	＜ 項 目・内 容 ＞ 地球温暖化 地球温暖化問題は、急速に問題として取上げられるようになってきた。その主原因は、二酸化炭素の増加であることが指摘されているが、その他の物質による影響も大きい。ここでは、地球のエネルギーバランスと気温の変化、温室効果ガスの種類とその影響、炭素循環、大気中の二酸化炭素濃度の変化、世界の二酸化炭素の排出量、地球温暖化の予測、二酸化炭素の削減対策とその効果などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 地球温暖化の原因物質およびその削減対策を理解する。
12	＜ 項 目・内 容 ＞ 酸性雨 酸性雨は、1950年代北欧三国にある湖沼の酸性化と生態系への影響として問題となり、その後、北米、東南アジア、中国など世界中で問題となっている。その原因は、産業活動、排ガス中の酸性物質であり、またそれらが国境を越えて周辺諸国にも拡散することでも問題になっている。ここでは、酸性雨の定義と発生機構、酸性雨による被害、世界および日本における酸性雨状況、酸性雨防止対策などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 酸性雨の原因およびその防止策を理解する。
13	＜ 項 目・内 容 ＞ オゾン層の破壊 オゾン層破壊は、1974年にローランドとモリーナが、フロンがオゾン層を破壊するという仮説を発表したことで明らかになった。オゾンホールとは、上空におけるオゾン濃度が急激に減少することをいい、南極や北極上空で確認されている。オゾンホールの出現により太陽光に含まれる紫外線が地表へ到達し生態系へ影響する。ここでは、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層保護の動き、オゾン層破壊防止対策などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ オゾン層破壊の原因およびその防止策を理解する。
14	＜ 項 目・内 容 ＞ 熱帯雨林の減少 世界の森林は、生物の生存や気候の安定化などに大きな役割を担っている。しかし、ヒトは過剰な活動により森林をつぎつぎと伐採し、地球環境全体に大きな損害を与えている。熱帯雨林の保護は、地球温暖化防止および生物種の保護などのために重要である。ここでは、熱帯雨林の効用、世界の熱帯雨林の破壊状況とその原因、木材資源の利用状況、熱帯雨林の保護対策などについて講義する。 ＜ 到 達 目 標 ＞ 熱帯雨林の減少の原因およびその防止策を理解する。
15	＜ 項 目・内 容 ＞ 定期試験 第7回から第14回までの講義内容について記述形式で臨時試験を行う。 ＜ 到 達 目 標 ＞

生涯スポーツ

健康スポーツ教育センターが行う教育について

1. 大学における健康スポーツ教育の目的

生涯学習社会における身体運動・スポーツ活動は、各自のライフスタイル形成においても中核的な機能を果たすものとして位置付けることができます。つまり、加速度的に進む高齢化社会のなかで、多くの人々を引き付け、魅了する身体運動・スポーツ活動を「生涯学習」という視点から捉えなおすとき、二つの大きな機能を果たしつつあります。一つは健康の維持・増進・回復という「健康への配慮」、一つは余暇の増大、生活水準の向上、生活意識の変化にともなう文化的な欲求としての「豊かな生きがいの創造」です。

例えば、生涯にわたる身体活動・スポーツ活動が、各自の「健康への配慮」に直接的なかかわりをもつことは自明なこととして理解できます。一方、高齢化社会の中でのよりよく生きるための『生きがい感』を「生きる喜びや満足感」、「生活の活力や張り合い」、「自分の可能性の実現」、「他人や社会に役立つ」などと捉えるとするならば、身体運動・スポーツが、各自の生きがい感を充実させ、より「豊かな生きがいの創造」に大きく貢献することは容易に想像することができます。

このような視点に立ち、健康スポーツ教育センターでは、一時的な大学における教育という枠を取り払い、生涯にわたる個人に対する健康・スポーツ教育のサポートシステムを構築しようとしています。それは、「生涯健康管理システム」として、大学における健康スポーツ教育の中核的なシステムとして位置付けています。

大学における生涯スポーツ教育の目標は、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身に付けること」です。

すなわち、生涯にわたる身体運動・スポーツ活動を通じてすべての人々が豊かに生き生きと生きることと、自己を表現できることを目標としたものであり、各自がライフステージに対応した自己開発や自己表現がなされること、そして身体運動・スポーツをすることが自己目的化されることを教育の目標としています。

そのために、健康スポーツ教育の目標を以下のように焦点付けました。

1. 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の維持・増進・回復を図るための素養を高める。
2. 身体運動・スポーツ実践のなかで、「新しい動きの体験」を享受することにより、運動する喜びとともに共生する喜びを体得する。
3. 身体運動・スポーツに関する科学的「知」を動くことによって実感し、探求する。
4. 身体運動・スポーツすることによって得られる集約的な身体の「知」を体得し、生涯スポーツ活動の素養を養う。

2. 正課授業について

正課授業とは、以下の通りです。

1）健康とスポーツの科学（講義　半期）２単位
2）生涯スポーツ１　（実技　前期）１単位
3）生涯スポーツ２　（実技　後期）１単位
4）健康スポーツ科学（実技・実習・講義、旧カリキュラム　４年）２単位

1）健康とスポーツの科学（講義）※理工学部のみ開講

今日の学生が持つ多様なニーズに応えるための試みとして、「生涯学習」の視点から「健康とスポーツの科学」を講義します。

（1）　スポーツ科学の基礎知識
（2）　健康科学の基礎から応用
（3）　健康の自己管理論

2)生涯スポーツ1．2(実技・実習)※開講（１～２年)

生涯スポーツ実習は、講義と連鎖しつつスポーツに関する基礎から応用まで専門的知識の習得を目指すものです。

（1） プレー・レジャー（コミュニケーション）としてのスポーツ

（2） 健康づくりとしてのスポーツ

（3） 身体能力開発としてのスポーツ　として展開します。

生涯スポーツ１は「基礎的」、生涯スポーツ２は「応用的」な視点で実施されます。

生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業内容

授業目的：生涯スポーツ１および生涯スポーツ２の授業は、実技を中心とした実践科目です。したがって、雨などによるやむをえない場合やＶＴＲなどの視聴覚機器を利用して授業を行う場合以外は、グラウンドや体育館で実施されます。両科目ともスポーツ・運動教材を用い、体力・運動能力の実質的向上あるいはその方法、健康の意義とその保持・増進の方法などを習得することを目標としています。ただし、生涯スポーツ２は、生涯スポーツ１と比較して、より深い知識の獲得とやや専門的な体力・運動能力の習得を目指しています。

授業内容：生涯スポーツ１および生涯スポーツ２の授業は、ひとつの時限に複数の担当者が、それぞれ異なった運動教材と異なった授業の展開を行いますので、ここでは代表的な授業内容を示します。それぞれの科目において、オリエンテーションは第１週目、フィットネス・チェックは第２週目と第３週目に実施しますが、それ以外の授業内容は担当者によって実施する週は異なります。

1．オリエンテーションと受講クラスの決定
2．フィットネス・チェック（形態測定、安静時心拍数、血圧、筋力）
3．フィットネス・チェック（筋持久力、柔軟性、敏捷性、全身持久性）
4．フィットネスの評価とそれに基づく運動プログラムの考案
5．各種スポーツの種目特性とその健康・体力への期待される効果
6．各種スポーツの種目特性とその心理的社会的効果
7．生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸
8．生涯にわたる運動・スポーツへの参加とＱＯＬ
9．各種スポーツの運動技能・技術の習得
10．各種スポーツの競技戦術・戦略の習得
11．各種スポーツのトレーニング方法の習得
12．各種スポーツのルールと審判法の習得
13．一流競技選手の体力・運動技能・戦術（ＶＴＲ等使用）
14．運動・スポーツに発生しがちな事故と救急処置
15．実技テスト

成績評価：出席・授業態度・実技の総合評価

備考：スポーツ実習で扱う運動教材はサッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球、硬式テニス、バトミントン、ソフトボール、各種軽スポーツ等です。

3．履修登録について注意

1．生涯スポーツ１.２の第１回目の授業について

1）生涯スポーツ１．２及び健康スポーツ科学を受講する者は、担当教員の許可を得なければならない。

2）生涯スポーツ１．２及び健康スポーツ科学を受講するものは、４月の第一回目の授業時に履修要項を持参の上、記念会館に集合する。(農学部は別途指定する。)

＊ 第一回目の授業では、担当教員が授業内容を説明した後、受講の受付を行う。この際、各受講クラスは、実技・実習を実施する場合の安全確保などの観点から定員を設け、それを超過した場合

は受講を制限することがある。
なお、第一回目授業終了後、特別な理由がない限り、受講申請は認めない。
同一名称科目は重複することはできない。（２～３年生）
教職課程を希望する際は「生涯スポーツ１・２」は必須となります。
詳しくは（教職課程履修要項を参照）

２．履修相談について

健康スポーツ教育センター正課授業に関する履修相談は、以下の日程で行います。

期　日：平成１５年４月９日（水）～平成１５年４月１７日（木）
時　間：①１１：００～１５：００　②１７：００～１８：００
場　所：①・②健康スポーツ教育センター事務室（１１号館１階）

4. 履修上の注意

1．実技・実習は、巻末の地図に示されたスポーツ施設において実施する。
2．各週の授業場所は、年度始めに担当教員が指示するが、雨天、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更するときがある。この場合、健康スポーツ教育センター専用掲示板（１１号館１階）に、実施場所を掲示する。この掲示は、天候変化などにより不定期にだされるので、各自の授業の直前に必ず確認をとること。
3．実技・実習等の服装はトレーニングウェアおよび運動靴を使用する。眼鏡、時計,指輪など、破損しやすいものは、危険防止の見地からも、授業中できるだけ携帯しないこと。万一破損があっても補償できない。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については、「実技・実習上の安全対策」の項を熟読すること。
4．屋内（記念会館、小体育館、剣道場など）の授業では必ず館内シューズを使用すること。またグラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用し、テニスコートではテニスシューズを使用すること。
5．更衣場所については担当教員の指示に従うこと。
6．授業に関する不明な点は、健康スポーツ教育センター事務室（１１号館１階）、第２体育教員控室（記念会館）、農学部健康スポーツ教育センター教員控室（奈良キャンパス）に問い合わせること。

5. 実技・実習上の安全対策

１．事故防止について

実技・実習中、避けることのできない不可効力的な事故もありうる。しかし多くの場合、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられる。暴飲暴食、朝食を摂らない、睡眠不足、不規則不摂生の生活をおくっているために、最悪のコンディションで実技・実習に参加し、大きな事故をおこし、自分だけでなく、他の受講生に対しても迷惑をかけることなど、厳に戒めるべきことである。これは、実技・実習の履修に際して、最も注意すべきことであり、リズムのある日常生活は、実技・実習で最優先されるべき参加態度といえるものである。実技・実習における安全管理は、日常の生活の自己管理からはじまっていると考えて欲しい。このようなことを日常生活の中で自覚し、実技・実習の際に以下のことに注意する。

1．服装について
　（1）トレーニングウェアを着用すること。
　（2）指定された靴を使用すること。
　（3）時計、指輪などの装飾品を身につけないこと。
　（4）爪は切っておくこと。
　（5）長い髪は適当にたばねること。

2．用具について

（1）使用用具の取り扱いは、担当教員の指示に従うこと。

（2）各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと。

3．活動中について

（1）担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること。

（2）各種目のルール、マナーを厳守すること。

（3）感情的にならないこと。

（4）心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること。

2．事故の処置について

実技・実習中に、万一外傷・その他、授業が継続できないような事故が発生した場合以下のような要領で処置する。

1）事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置する。

（1）大学保健管理室（１１月ホール３階)、または農学部医務室（まほろば館１階で応急処置を受ける。

（2）応急処置後、必要な場合は指定の医療機関に移送する。

2）事故後の書類処置について

（1）処置を受けた後、健康スポーツ教育センター事務室（１１号館１階)、又は、農学部体育研究室をたずね、事故を報告すること。

（2）学外の医療機関で治療した場合は、近畿大学学園学生健保共済会から医療費の給付を受けることができる。

この手続きは、担当教員が作成する「正課中・正課外事故証明書」を「医療費給付申請書」（入院外と入院の二種類がある）に添付して、学生部厚生課または農学部教務学生課に提出する。

（詳細は、近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESS ハンドブック」を参照のこと）

6．保健管理室について

保健管理室では、以下の業務を行っています。

自己の健康管理のためにも、一人でも多く利用されることをお薦めします。

1）応急手当

2）健康相談（本学医学部付属病院の医師が担当しています。）

3）精神衛生相談（カウンセリング）

4）健康診断証明書発行（詳しくは「保健管理室案内」を参照してください）

7．「生涯スポーツ」「健康とスポーツの科学」のガイドブックは記念会館で第1回目のガイダンスの時に配布する。

科目	生涯スポーツ　1	開講年次	1-2	担当者	松　本　晃　雄
		開講期	前期		
		単位数	1		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		11号館2階（内線）3154			

1 授業概要	現代社会における機械化の発達は著しく、それに伴い運動不足からくる生活習慣病が増加している。このような状況下、生涯スポーツの果たす役割は実に重要である。 生涯体育の観点から「体育の日常化」を最大のテーマとして、健康の中の大きな要素である体力を中心に、さまざまなトレーニング法を学び実践し、それらがどこででも出来る知識を得るよう共に追求したい。生涯スポーツ 1 では自宅で出来る軽い運動を組み、週 4 回（授業授業に 1 回、自宅で 3 回）を目標に実施する。またスポーツの生活化を目指し、スポーツへの動機づけ、楽しいスポーツ、スポーツの技術獲得の素晴らしさを体得させ、生涯体育の確立を目指す. （受講上の留意点）授業はスポーツ活動が主体になる。服装は上下スポーツウエア、館内では館内用シューズを、屋外では運動靴を着用する事。
2 教科書	使用しない
3 参考文献	特になし
4 関連科目	生涯スポーツ　2
5 試験方法	実技達成度技能テスト
6 成績評価基準	成績評価は出席状況、授業態度、授業の理解度、技能等を総合して評価する 出席状況（５０％）欠席４回以上は評価対象としない 技能点（２０％）、レポート（２０％）、態度点（１０％）
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	月、火、水　　13：00～17：00

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞生涯スポーツ　1
1	〈項目・内容〉 ガイダンス　　場所　　記念会館 第１回目の授業時に、クラス分けをする。受講者は記念会館に集合すること。 〈到 達 目 標〉　自分の身体及び体力を知る
2	〈項目・内容〉 フィットネスチェック　　場所　　記念会館 フィットネスチェックをするので、上下スポーツウエアと館内シューズを持参のこと 〈到 達 目 標〉 自分の身体及び体力を知る
3	〈項目・内容〉 フィットネスチェック　　場所　　記念会館 〈到 達 目 標〉自分の身体及び体力を知る
4	〈項目・内容〉 軽いトレーニングを組む　　卓球・バド基本技術　　記念会館 〈到 達 目 標〉 自宅でできるトレーニングを組むため、記録用紙に種目を図入りで記入する
5	〈項目・内容〉 ストレチングの実際　　卓球かバド基本技術 〈到 達 目 標〉 ストレッチングをやり方を覚え、自宅で実施する

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉生涯スポーツ　1
6	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　卓球かバド基本技術 〈到 達 目 標〉 フォアハンド、バックハンド、サーブが打てるようにする
7	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　卓球かバド基本技術　シングルスゲーム導入 〈到 達 目 標〉 ルールを覚えゲームが出来るようにする。
8	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　卓球かバド基本技術　シングルスゲーム 〈到 達 目 標〉
9	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　テニス基本技術　雨天時は記念会館中２階 〈到 達 目 標〉 フォアハンド、バックハンドを打てるようにする
１０	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　テニス基本技術 〈到 達 目 標〉 フォアハンド、バックハンド、サーブを打てるようにする

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ　1
１１	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　テニス基本技術　シングルスのルール 〈到 達 目 標〉 対人でラリーが打てるようにする
１２	〈項目・内容〉 テニス基本技術　チャンピオンシップゲーム 〈到 達 目 標〉 シングルスのゲームが出来るようにする
１３	〈項目・内容〉 チャンピオンシップゲーム 〈到 達 目 標〉
１４	〈項目・内容〉 チャンピオンシップゲーム 〈到 達 目 標〉 シングルスのゲームが出来るようにする
１５	〈項目・内容〉 チャンピオンシップゲーム

科目	生涯スポーツ１	開講年次	１－２	担当者	佐　川　和　則
		開講期	前期		
		単位数	１		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	身体運動（特に走運動）の生体力学的解析
研究室	佐川研究室	11号館２階（内線)3161			

１　授　業　概　要	高齢化社会を健やかに生き抜くために必要な身体的能力について理解を深め、青年期からライフスタイルを改善することの重要性を学ぶ。特に健康に関連する体力要素の理論的背景とそのトレーニング方法を実践を通して身につける。 実技教材にはバドミントンとゲートボールを取りあげ、それぞれのスポーツの競技特性を理解しながら上記の授業目標の達成を目指すと同時に、生涯にわたりスポーツを楽しむための態度を養う。
２　教　科　書	
３　参　考　文　献	
４　関　連　科　目	
５　試　験　方　法	
６　成績評価基準	授業への出席状況、授業参加態度、および実技習得度により総合的に評価する。
７　授業評価実施方法	
８　オフィスアワー	月曜日５時限、11号館２階佐川研究室、 sagawa@msa.kindai.ac.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
1	〈項目・内容〉 ガイダンス どの教員の授業を受講するか決定する。
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック 体力・形態等を測定する。
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック 体力・形態等を測定する。
4	〈項目・内容〉 バドミントンのルールと競技特性 バドミントンの歴史、ルール、運動強度を理解する。 ラケット、シャトルの取り扱い方を学ぶ。 〈到達目標〉 ラッケトで落ちているシャトルを拾う。飛んできたシャトルをラケットでとる。一人で連続してシャトルを打つ。
5	〈項目・内容〉 バドミントンの基本ストロークⅠ ハイクリア、ロングサーブ、ショートサーブを身に付ける。 〈到達目標〉 上記のストロークが打てるようになる。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
6	〈項目・内容〉 バドミントンの基本ストロークⅡ ドロップショット、カット、ヘアピンショットを身に付ける。 〈到 達 目 標〉 上記のストロークが打てるようになる。
7	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅠ（ダブルス） ダブルスのルールを理解すると同時に簡単なゲームを行う。 〈到 達 目 標〉 ダブルスのゲームができるようになる。
8	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅡ（ダブルス） フォーメーション（サイドバイサイド、トップアンドバック、ローテーション）を考える。 〈到 達 目 標〉 フォーメーションを決めてゲームができるようになる。
9	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅢ（ダブルス） リーグ戦を行う。 〈到 達 目 標〉 チームプレイを考え、試合ができるようになる。
１０	〈項目・内容〉 ゲートボールのルールと競技特性 ゲートボールが考案された背景、基本的なルール、および運動強度などの競技特性を理解する。 〈到 達 目 標〉 ルールを覚える。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
１１	〈項目・内容〉　ゲートボールの基本技術とゲームの準備 スティック、ボールの扱い方、打撃方法について学び、簡易的なゲームを行う。 〈到 達 目 標〉　基本的打撃、スパーク技術を習得する。
１２	〈項目・内容〉　ゲートボールのゲームⅠ 5 対 5 でのゲームを行う。チームとしてプレイすることを学ぶ。 〈到 達 目 標〉　とりあえず試合ができるようになる。
１３	〈項目・内容〉　ゲートボールのゲームⅡ 作戦を決め、それに従い試合を進める。 〈到 達 目 標〉　作戦が立てられるようになる。
１４	〈項目・内容〉　ゲートボールのゲームⅢ チーム内の個人の能力を理解し、チームプレイで戦う。 〈到 達 目 標〉　チームとして試合ができるようになる。
１５	〈項目・内容〉　授業のまとめとフィットネス・チェックの評価 授業で学んだことの確認とフィットネス・チェックデータを自己評価する。 〈到 達 目 標〉　身体運動と健康との関わりと、生涯健康的な生活を送る上で必要な体力について理解する。

科目	生涯スポーツ１	開講年次	１－２	担当者	森　下　泰　行
		開講期	前期		
		単位数	１		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

１　授業概要	各種のフィットネス・チェックから自己の体を認識し、それぞれの弱点・矯正に重点を置き、実践種目に取り入れながら、各自の体力向上を目指し体づくりを行う。
２　教科書	
３　参考文献	
４　関連科目	
５　試験方法	
６　成績評価基準	出席点・態度点・技能点
７　授業評価実施方法	
８　オフィスアワー	

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
1	〈項目・内容〉 ガイダンス　記念会館
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック　記念会館
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック　記念会館
4	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの評価　記念会館
5	〈項目・内容〉 卓球のルールと体力特性　剣道場

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
6	〈項目・内容〉 卓球の基本技術Ⅰ　剣道場
7	〈項目・内容〉 卓球の基本技術Ⅱ　剣道場
8	〈項目・内容〉 卓球のゲームⅠ　剣道場
9	〈項目・内容〉 卓球のゲームⅡ　剣道場
１０	〈項目・内容〉 卓球のゲームⅢ　剣道場

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
１１	〈項目・内容〉 ソフト・ボールのルールと特性　　南グランド
１２	〈項目・内容〉 ソフト・ボールの基本技術　　南グランド
１３	〈項目・内容〉 ソフト・ボールのゲーム１　　南グランド
１４	〈項目・内容〉 ソフト・ボールのゲームⅡ　　南グランド
１５	〈項目・内容〉 ソフト・ボールのゲームⅢ　　南グランド

科目	生涯スポーツ１	開講年次	１－２	担当者	西　畑　賢　治
		開講期	前期		
		単位数	１		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

１　授業概要	各種のフィットネス・チェックから自己の体を認識し、各々弱点を矯正する事を重点におき、実践種目を取り入れながら、各自の体力向上を目指す。
２　教科書	使用しない
３　参考文献	特になし
４　関連科目	生涯スポーツ２
５　試験方法	
６　成績評価基準	出席状況と平常点
７　授業評価実施方法	
８　オフィスアワー	

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
1	〈項目・内容〉 ガイダンス
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
4	〈項目・内容〉 ゲートボールのルールと体力特性
5	〈項目・内容〉 ゲートボールの基本技術とゲームの準備

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
6	〈項目・内容〉 ゲートボールのゲームⅠ
7	〈項目・内容〉 ゲートボールのゲームⅡ
8	〈項目・内容〉 ゲートボールのゲームⅢ
9	〈項目・内容〉 ゲートボールのゲームⅣとまとめ
１０	〈項目・内容〉 卓球のルールと体力特性

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
１１	〈項目・内容〉 卓球の基本技術Ⅰ
１２	〈項目・内容〉 卓球の基本技術Ⅱ
１３	〈項目・内容〉 卓球のゲームⅠ
１４	〈項目・内容〉 卓球のゲームⅡ
１５	〈項目・内容〉 卓球のゲームⅢとまとめ

科目	生涯スポーツ1	開講年次	1－2	担当者	中　井　久　純
		開講期	前期		
		単位数	1		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

1 授業概要	高齢社会を健やかに生き抜くために必要な身体的能力について理解を深め、青年期からライフスタイルを改善することの重要性を学ぶ。特に、健康に関する体力要素の理論的背景とそのトレーニング方法を実践を通して身に付けることを目指す。
2 教科書	使用しない
3 参考文献	特になし
4 関連科目	生涯スポーツ2
5 試験方法	
6 成績評価基準	態度、出席、技能
7 授業評価実施方法	授業回数15回
8 オフィスアワー	n.zumi@docomo.ne.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 1
1	〈項目・内容〉 ガイダンス/記念会館
2	〈項目・内容〉 フィットネスチェック/記念会館
3	〈項目・内容〉 フィットネスチェックの集計と評価 ソフトボールの歴史やルールの学習/東グラウンド又は記念会館
4	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A:ソフトボール/東グラウンド（記念会館） キャッチボール・守備練習 〈到 達 目 標〉　全員マスターする
5	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A:ソフトボール/東グラウンド（記念会館） キャッチボール・守備練習・打撃練習 〈到 達 目 標〉　全員マスターする

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　＜ 科　目 ＞ 生涯スポーツ 1
6	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A:ソフトボール/東グラウンド（記念会館） キャッチボール・守備練習・打撃練習
7	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A:ソフトボール/東グラウンド（記念会館） キャッチボール ゲーム
8	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A:ソフトボール/東グラウンド（記念会館） キャッチボール ゲーム
9	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B:ゴルフ/レクレーションコート（記念会館中 2 階） ゴルフのルールや基本を学習する
１０	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B:ゴルフ/レクレーションコート（記念会館中 2 階） SW・PW のアイアンクラブを使って基本練習をする

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
１１	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B:ゴルフ/レクレーションコート（記念会館中２階） SW・PW のアイアンクラブを使って基本練習をする 〈到 達 目 標〉　ボールに当てる
１２	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B:ゴルフ/レクレーションコート（記念会館中２階） PW・９番のアイアンクラブを使って基本練習をする 〈到 達 目 標〉　ボールに当てる
１３	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B:ゴルフ/レクレーションコート（記念会館中２階） ９番・７番のアイアンクラブを使って基本練習をする パラソルカップを使ってアプローチゲームをする 〈到 達 目 標〉　ボールを飛ばす
１４	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B:ゴルフ/レクレーションコート（記念会館中２階） パラソルをカップに使い、5H、アプローチゲームをする 〈到 達 目 標〉　ボールを飛ばす
１５	〈項目・内容〉 フィットネスチェック/記念会館

科目	生涯スポーツ１	開講年次	１－２	担当者	川野裕姫子
		開講期	前期		
		単位数	１		
分野	社会人文科学	区分	共通教養科目	研究テーマ	生活習慣と体力
研究室		号館　階（内線）			

１ 授業概要	文明の発達により運動不足やストレスを招いている現代社会に於いて、私た達が健康で豊かな生活を送るためにはスポーツ活動が大きな役割を果たしています。そこで本授業を通して自己の体力を把握し、日常生活の中にスポーツを取り入れることの必要性を認識させる。また、生涯スポーツを目標として、スポーツの「楽しさ」や「喜び」を体得し、生涯を通じた健康のの保持増進を目指すことを目標とする。
２ 教科書	使用しない
３ 参考文献	特になし
４ 関連科目	生涯スポーツ２
５ 試験方法	
６ 成績評価基準	出席状況（５０点） 受講態度（３０点） 技　能　（２０点）
７ 授業評価実施方法	毎時間の受講態度・技能の達成度により評価する。
８ オフィスアワー	月曜日　１限～３限（９：００～２：４０）　記念会館

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 1
1	〈項目・内容〉 オリエンテーションとクラス分け。 〈到 達 目 標〉 授業概要を理解させる。
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの説明と実践。 〈到 達 目 標〉 正しい測定の実践。
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの説明と実施。 〈到 達 目 標〉 正しい測定の実践。
4	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの集計と評価の説明。 〈到 達 目 標〉 自己の体力を評価し、今後の実践に生かす。
5	〈項目・内容〉 バドミントンの概要説明、基礎技術練習（グリップ、ストローク、サーブ）。 〈到 達 目 標〉 基礎技能の習得。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈科　目〉生涯スポーツ１
6	〈項目・内容〉 基礎技術練習（ストローク、ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘアピン、ドライブ）。 〈到達目標〉 基礎技能の習得。
7	〈項目・内容〉 基礎技術練習（ストローク、ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘアピン、ドライブ）。 簡易ゲーム（シングル）。 〈到達目標〉 ゲームの組立を実践。
8	〈項目・内容〉 シングルゲームの説明、ゲーム（リーグ戦）。 〈到達目標〉 ルールを理解すると共に互いにゲームの運営を行う。
9	〈項目・内容〉 シングルゲーム（リーグ戦）。 〈到達目標〉 ルールを理解すると共に互いにゲームの運営を行う。
１０	〈項目・内容〉 バレーボールの概要説明、基礎技術練習（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス）。 〈到達目標〉 対人パス３０回以上を目標とする。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
１１	〈項目・内容〉 基礎技術練習（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ、スパイク、ブロック）。 〈到 達 目 標〉 三段攻撃を目標とする。
１２	〈項目・内容〉 基礎技術練習（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ、スパイク、ブロック）。 簡易ゲーム。 〈到 達 目 標〉 三段攻撃を使ってのゲーム。
１３	〈項目・内容〉 ルール説明、ゲーム（トーナメント戦）。 〈到 達 目 標〉 ルールを理解すると共に互いにゲームの運営を行う。
１４	〈項目・内容〉 ゲーム（リーグ戦）。 〈到 達 目 標〉 互いにゲームの運営を行う。
１５	〈項目・内容〉 ゲーム（リーグ戦）。 〈到 達 目 標〉 ゲームの組立とフォーメーションプレイ。

科目	生涯スポーツ１	開講年次	１	担当者	木　内　真　弘
		開講期	前期		
		単位数	２		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

１　授業概要	（授業の目標、目的、方針） このコースはテニス、サッカーのもつスポーツ特性を最大限に生かすべくスポ―ツ実践を通して各自自らのフィジカル・メンタル・スキル面など分析、判断する資料を作り実際の活動においてフィジカル・メンタル・スキル面の３つの面を理論的に考え学ぶことに重点をおき生涯スポーツへの発展的段階をを養う。 （受講心得） 積極的な自己主張とリーダーシップの精神を養い共通の価値観を持ちまた状況に応じた自己抑制と協調性を養い社会性を獲得することを身につける。
２　教科書	特になし
３　参考文献	特になし
４　関連科目	
５　試験方法	
６　成績評価基準	平常点６０％、レポート等１０％、技能・態度点３０点
７　授業評価実施方法	
８　オフィスアワー	m-kiuchi@dab.hi-ho.ne.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 1
1	〈項目・内容〉 ガイダンス
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
4	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの評価
5	〈項目・内容〉 テニスの基本テクニック I 〈到 達 目 標〉 フォーハンドGS、バックハンドGSの習得

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
6	〈項目・内容〉 テニス基本テクニックⅡ 〈到 達 目 標〉 ボレー、サービスの習得
7	〈項目・内容〉 テニスのダブルスのゲーム 〈到 達 目 標〉 ミニゲーム、ルール、フォーメーション、戦術の習得
8	〈項目・内容〉 サッカーの基本テクニックⅠ 〈到 達 目 標〉 ボールを飛ばす技術、止める技術の習得
9	〈項目・内容〉 サッカーの基本テクニックⅡ 〈到 達 目 標〉 ボールを運ぶ技術の習得
１０	〈項目・内容〉 サッカーのゲームⅠ 〈到 達 目 標〉 ５対５のミニゲームで攻め方や守り方ができること。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ１
１１	〈項目・内容〉 サッカーのゲームⅡ 〈到 達 目 標〉 フルコートで攻め方や守り方ができること。
１２	〈項目・内容〉 サッカーのゲームⅢ 〈到 達 目 標〉 フルコートで攻め方や守り方ができること。
１３	〈項目・内容〉 技能テストⅠ
１４	〈項目・内容〉 技能テストⅡ
１５	〈項目・内容〉 テニス、サッカーのまとめ

科目	生涯スポーツ２	開講年次	１－２	担当者	松　本　晃　雄
		開講期	後期		
		単位数	１		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		１１号館２階（内線）３１５４			

１　授業概要	生涯体育の観点から「体育の日常化」を最大のテーマとして、健康の中の大きな要素である体力を中心に、さまざまなトレーニング法を学び実践し、それらがどこででも出来る知識を得るよう共に追求したい。生涯スポーツ２では、運動強度を上げ、持久力と筋力の強化をねらい、自宅で出来るサーキット・トレーニングを組み、週４回（授業時に１回、自宅で３回）を目標に実施する。又、スポーツにおいては、生涯スポーツ１での実技技能を基礎としてゲームを中心に実施する。 （受講上の留意点）授業はスポーツ活動が主体になる。服装は上下スポーツウエア、館内では館内用シューズを、屋外では運動靴を着用する事。
２　教科書	使用しない
３　参考文献	特になし
４　関連科目	生涯スポーツ　1
５　試験方法	実技達成度技能テスト
６　成績評価基準	成績評価は出席状況、授業態度、授業の理解度、技能等を総合して評価する 出席状況（５０％）欠席４回以上は評価対象としない 技能点（２０％）、レポート（２０％）、態度点（１０％）
７　授業評価実施方法	
８　オフィスアワー	月、火、水　　13：00～17：00

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉　生涯スポーツ２
1	〈項目・内容〉 フィットネスチェック　　記念会館 第１回目の授業よりフィットネスチェックをするので、上下スポーツウエアと館内シューズを持参のこと 〈到 達 目 標〉　自分の身体及び体力を知る
2	〈項目・内容〉　　場所 フィットネスチェック　　記念会館 〈到 達 目 標〉　自分の身体及び体力を知る
3	〈項目・内容〉 サーキット・トレーニングのセッティング　　記念会館 〈到 達 目 標〉サーキット・トレーニングの負荷のセッティング。サーキット・トレーニングのやり方を覚え、自宅で実施する
4	〈項目・内容〉 ストレチングの実際　　卓球かバド基本技術　　記念会館
5	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　　卓球かバド基本技術

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉　生涯スポーツ２
6	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　卓球・バド基本技術　　ダブルス導入 〈到 達 目 標〉　ダブルスのコンビネーションの練習
7	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　　卓球・バド基本技術　　ダブルスゲーム
8	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　　卓球・バド基本技術　ダブルスゲーム
9	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　　テニス基本技術　　雨天時は記念会館中２階 〈到 達 目 標〉　生涯スポーツ１での技術の復習
１０	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　　テニス基本技術 〈到 達 目 標〉　対人とのラリー

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
１１	〈項目・内容〉 ストレチングとトレーニング　テニス基本技術　ダブルスのルール
１２	〈項目・内容〉 テニスダブルスゲーム 〈到 達 目 標〉 二人で協力しながら互いに試合に貢献出来ようにする。
１３	〈項目・内容〉 ダブルスゲーム
１４	〈項目・内容〉 ダブルスゲーム
１５	〈項目・内容〉 ダブルスゲーム

科目	生涯スポーツ２	開講年次	1－2	担当者	佐　川　和　則
		開講期	後期		
		単位数	1		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	身体運動（特に走運動）の生体力学的解析
研究室	佐川研究室	11号館２階（内線)3161			

1 授業概要	健康と体力の関係についてより深く理解するために、身体運動と生活習慣病との関連に焦点をあて、身体運動が特に呼吸循環機能の改善に与える効果とわれわれの適応の仕方について実践を通して考える。 実技教材にはバドミントン、ソフトボールおよびハンドボールを取りあげ、それぞれのスポーツの競技特性を理解しながら上記の授業目標の達成を目指すと同時に、生涯にわたりスポーツを楽しむための態度を養う。
2 教科書	
3 参考文献	
4 関連科目	
5 試験方法	
6 成績評価基準	授業への出席状況、授業参加態度、および実技習得度により総合的に評価する。
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	月曜日５時限、11号館２階佐川研究室、 sagawa@msa.kindai.ac.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
1	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック 体力・形態等を測定する。
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック 体力・形態等を測定する。
3	〈項目・内容〉 ソフトボールのルールと競技特性 ソフトボールのルールと競技・体力特性を理解する。 捕球、投球、およびバッティングの基本的技術を学ぶ。 〈到 達 目 標〉 キャッチボールとトスバッティングができるようになる。
4	〈項目・内容〉 ソフトボールのゲームⅠ ソフトボール・ゲームの進め方を実践を通して学ぶ。 〈到 達 目 標〉 ゲームが楽しめるようになる。
5	〈項目・内容〉 ソフトボールのゲームⅡ 作戦を立てて試合をする。 チームメイトの特性を考慮し、ポジションや打順を決める。 〈到 達 目 標〉 ゲームが楽しめるようになる。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈科　目〉生涯スポーツ２
6	〈項目・内容〉　ハンドボールのルールと競技特性 ハンドボールのルールと競技・体力特性を理解する。 基本的スローイング、ディフェンス法およびオフェンス法を学ぶ。 〈到達目標〉　自分にあったポジションを見つけ、ゲームができるようになる。
7	〈項目・内容〉　ハンドボールのゲームⅠ ディフェンスとオフェンスのフォーメーションを考える。 ポストプレイを試みる。 〈到達目標〉　組織的なプレイができるようになる。
8	〈項目・内容〉　ハンドボールのゲームⅡ 相手チームの特徴に合わせてディフェンスとオフェンスを考える。 〈到達目標〉　作戦を立ててゲームができるようになる。
9	〈項目・内容〉　バドミントンのルールと競技特性 バドミントンの歴史、ルール、運動強度を理解する。 ラケット、シャトルの取り扱い方を学ぶ。 〈到達目標〉　チームプレイを考え、試合ができるようになる。
１０	〈項目・内容〉　バドミントンの基本ストローク ハイクリア、サーブ、ドロップ、ヘアピン、カット、ドリブン等のショットの習得 〈到達目標〉　より正確なショットが打てるようになる。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
１１	〈項目・内容〉 バドミントンのコンビネーション・ストローク 状況によっていろいろなショットを打つ。 〈到 達 目 標〉 対戦者の位置取りを把握し、適切なショットが打てるようになる。
１２	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅠ（シングルス） ハーフコートでのシングルス・ゲームを行う。 〈到 達 目 標〉 シングルスでのゲームの進め方を理解する。
１３	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅡ（シングルス） オールコートでのシングルス・ゲームを行う（第１次リーグ）。 〈到 達 目 標〉 プレイが組み立てられるようになる。
１４	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅢ（シングルス） オールコートでのシングルス・ゲームを行う（第２次リーグ）。 〈到 達 目 標〉 チームが楽しめるようになる
１５	〈項目・内容〉 授業のまとめとフィットネス・チェックの評価 授業で学んだことの確認とフィットネス・チェックデータを自己評価する。 〈到 達 目 標〉 身体運動と健康との関わりおよび生涯健康的な生活を送る上で必要な体力について理解する。

科目	生涯スポーツ２	開講年次	1－2	担当者	森　下　泰　行
		開講期	後期		
		単位数	1		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

1 授業概要	青年期に必要な健康・体力の保持増進を図り、健やかな心身の発達と活動的で楽しい学生生活の実現を目指し、身体運動を生活に取り入れ、実践する意義をより深く理解し、応用発展的に自ら実践する意欲を高める。
2 教科書	
3 参考文献	
4 関連科目	
5 試験方法	
6 成績評価基準	出席点・態度点・技能点
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
1	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック　記念会館
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック　記念会館
3	〈項目・内容〉 バドミントンのルール特性　記念会館
4	〈項目・内容〉 バドミントンの基本技術Ⅰ　記念会館
5	〈項目・内容〉 バドミントンの基本技術Ⅱ　記念会館

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈科　目〉生涯スポーツ２
6	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅠ　記念会館
7	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅡ　記念会館
8	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅢ　記念会館
9	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅣ　記念会館
１０	〈項目・内容〉 バスケット・ボールのルールと特性　記念会館

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
１１	〈項目・内容〉 バスケット・ボールの基本技術Ⅰ　記念会館
１２	〈項目・内容〉 バスケット・ボールの基本技術Ⅱ　記念会館
１３	〈項目・内容〉 バスケット・ボールのゲームⅠ　記念会館
１４	〈項目・内容〉 バスケット・ボールのゲームⅡ　記念会館
１５	〈項目・内容〉 バスケット・ボールのゲームⅢ　記念会館

科目	生涯スポーツ2	開講年次	1－2	担当者	西　畑　賢　治
		開講期	後期		
		単位数	1		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

1 授業概要	青年期に必要な健康・体力の保持増進を図り、健やかな心身の発達と、活動的で楽しい学生生活の実現を目指し、身体活動を生活に取り入れ、実践する意義をより深く理解することを目的とする。
2 教科書	使用しない
3 参考文献	特になし
4 関連科目	生涯スポーツ1
5 試験方法	
6 成績評価基準	出席状況と平常点
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
1	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
3	〈項目・内容〉 バドミントンのルールと体力特性
4	〈項目・内容〉 バドミントンの基本技術Ⅰ
5	〈項目・内容〉 バドミントンの基本技術Ⅱ

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈科　目〉生涯スポーツ２
6	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅠ
7	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅡ
8	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅢ
9	〈項目・内容〉 バドミントンのゲームⅣとまとめ
１０	〈項目・内容〉 バスケットボールのルールと体力特性

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
１１	〈項目・内容〉 バスケットボールの基本技術Ⅰ
１２	〈項目・内容〉 バスケットボールの基本技術Ⅱ
１３	〈項目・内容〉 バスケットボールのゲームⅠ
１４	〈項目・内容〉 バスケットボールのゲームⅡ
１５	〈項目・内容〉 バスケットボールのゲームⅢとまとめ

科目	生涯スポーツ2	開講年次	1-2	担当者	中　井　久　純
		開講期	後期		
		単位数	1		
分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

1 授業概要	健康と体力の関係についてより深く理解するために、呼吸循環機能と生活習慣病の関連に焦点をあて、身体運動が呼吸循環機能の改善に与える効果とわれわれの適応の仕方について実践を通して考える。
2 教科書	使用しない
3 参考文献	特になし
4 関連科目	生涯スポーツ1
5 試験方法	
6 成績評価基準	態度、出席、技能
7 授業評価実施方法	授業回数15回
8 オフィスアワー	n.zumi@docomo.ne.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 2
1	〈項目・内容〉 フィットネスチェック/記念会館
2	〈項目・内容〉 フィットネスチェックの集計と評価 スポーツ実習 A:レクレーションコート ゴルフのルールと競技特性
3	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A アイアンクラブを使って基本練習 SW/PW/AW/9 番/7 番/5 番クラブ使用
4	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A アイアンクラブを使って基本練習 SW/PW/AW/9 番/7 番/5 番クラブ使用 〈到達目標〉　全員マスターする
5	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A アイアン及びウッドクラブを使って基本練習 9 番/7 番/5 番クラブ使用 1W/3W/4W のウッドクラブも使用 〈到達目標〉　全員マスターする

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 2
6	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A アイアン及びウッドクラブを使って基本練習 9 番/7 番/5 番クラブ使用 1W/3W/4W のウッドクラブも使用
7	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A アイアン及びウッドクラブを使って基本練習 ショートアプローチの練習
8	〈項目・内容〉 スポーツ実習 A: レクレーションコートで４-５ホールコースを作りゲームを行う
9	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B：東グラウンド バスケットボールのルールと競技特性
１０	〈項目・内容〉 スポーツ実習 B: バスケットボールの基礎的技術練習

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
１１	〈項目・内容〉 スポーツ実習Ｂ バスケットボールの基礎的技術練習
１２	〈項目・内容〉 スポーツ実習Ｂ バスケットボールの基礎的技術練習 ゲームⅠ
１３	〈項目・内容〉 スポーツ実習Ｂ バスケットボールの基礎的技術練習 ゲームⅡ
１４	〈項目・内容〉 スポーツ実習Ｂ バスケットボールの基礎的技術練習 ゲームⅢ
１５	〈項目・内容〉 フィットネスチェック/記念会館

科目	生涯スポーツ 2	開講年次	1-2	担当者	川野裕姫子
		開講期	後期		
		単位数	1		
分野	社会人文科学	区分	選択	研究テーマ	逞しく生きるための健康と体力
研究室		号館 階（内線）			

1 授業概要	健康を保持するだけでなく、より健康的な状態を得るために各人のライフスステージでそれぞれの目的にあった運動のプログラムを作成し、実践できるようにする。また、生涯にわたり様々な環境条件に対する心身の適応能力を力を高めるためのスポーツ活動を実践する習慣を身につけさせる。
2 教科書	使用しない
3 参考文献	特になし
4 関連科目	生涯スポーツ１
5 試験方法	
6 成績評価基準	出席状況（５０点） 受講態度（３０点） 技　能　（２０点）
7 授業評価実施方法	毎時間の受講態度・技能の達成度により評価する。
8 オフィスアワー	月曜日　１限～３限（９：００～２：４０）　記念会館

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
1	〈項目・内容〉 オリエンテーション及びフィットネス・チェックの説明と実施。 〈到 達 目 標〉 授業概要を理解させる。
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの説明と実施。 〈到 達 目 標〉 正しい測定の実践。
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの集計と評価の説明。 〈到 達 目 標〉 自己の体力を評価し、今後の実践に生かす。
4	〈項目・内容〉 バレーボールの概要説明。 基礎技術練習（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、アタック、サーブ、ブロック）。 〈到 達 目 標〉 対人パス３０回と三段攻撃習得。
5	〈項目・内容〉 ルール説明、基礎技術練習と簡易ゲーム。 〈到 達 目 標〉 三段攻撃を実践。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
6	〈項目・内容〉 応用技術練習（攻撃パターン、防御プレイ）と簡易ゲーム。 〈到 達 目 標〉 応用技術の習得。
7	〈項目・内容〉 応用技術練習（攻撃パターン、防御プレイ）とゲーム（トーナメント戦)。 〈到 達 目 標〉 応用技術の実践。
8	〈項目・内容〉 ゲーム（リーグ戦） 〈到 達 目 標〉 応用技術の実践。
9	〈項目・内容〉 ゲーム（リーグ戦)。 〈到 達 目 標〉 応用技術の実践
１０	〈項目・内容〉。 卓球の概要説明、基礎技術練習（グリップ、ロング打法、サービス)。 〈到 達 目 標〉 ラリーを５０回つづけることを目標とする。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ２
１１	〈項目・内容〉 基礎技術練習（カット、スマッシュ）。 〈到 達 目 標〉 カットとスマッシュの基本姿勢の習得。
１２	〈項目・内容〉 基礎技術練習（ロング打法、サービス、カット、スマッシュ）。 簡易ゲーム（シングル）。 〈到 達 目 標〉 基礎技能を生かしたゲームへの取り組み。
１３	〈項目・内容〉 シングルのルール説明、ゲーム（リーグ戦）。 〈到 達 目 標〉 ルールを理解すると共に互いにゲームの運営を行う。
１４	〈項目・内容〉 ダブルスのルール説明、ゲーム（リーグ戦）。 〈到 達 目 標〉 ルールを理解すると共に互いにゲームの運営を行う。
１５	〈項目・内容〉 ゲーム（リーグ戦）。 〈到 達 目 標〉 ゲームの組立とフォーメイションプレイの習得。

科目	生涯スポーツ２	開講年次	１－２	担当者	木　内　真　弘
		開講期	後期		
		単位数	２		

分野		区分	共通教養科目	研究テーマ	
研究室		号館　階（内線）			

１　授業概要	（授業の目標、目的、方針） このコースはテニス、サッカーのもつスポーツ特性を最大限に生かすべくス—ツ実践を通して各自自らのフィジカル・メンタル・スキル面など分析、判断する資料を作り実際の活動においてフィジカル・メンタル・スキル面の３つの面を理論的に考え学ぶことに重点をおき生涯スポーツへの発展的段階をを養う。 （受講心得） 積極的な自己主張とリーダーシップの精神を養い共通の価値観を持ちまた状況に応じた自己抑制と協調性を養い社会性を獲得することを身につける。
２　教科書	特になし
３　参考文献	特になし
４　関連科目	
５　試験方法	
６　成績評価基準	平常点６０％、レポート等１０％、技能・態度点３０点
７　授業評価実施方法	
８　オフィスアワー	m-kiuchi@dab.hi-ho.ne.jp

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 2
1	〈項目・内容〉 ガイダンス
2	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
3	〈項目・内容〉 フィットネス・チェック
4	〈項目・内容〉 フィットネス・チェックの評価
5	〈項目・内容〉 テニスの基本テクニックⅠ フォーハンドGS、バックハンドGSの習得

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 2
6	〈項目・内容〉 テニス基本テクニックⅡ 〈到 達 目 標〉 ボレー、サービスの習得
7	〈項目・内容〉 テニスのダブルスのゲーム 〈到 達 目 標〉 ミニゲーム、ルール、フォーメーション、戦術の習得
8	〈項目・内容〉 サッカーの基本テクニックⅠ 〈到 達 目 標〉 ボールを飛ばす技術、止める技術の習得
9	〈項目・内容〉 サッカーの基本テクニックⅡ 〈到 達 目 標〉 ボールを運ぶ技術の習得
１０	〈項目・内容〉 サッカーのゲームⅠ 〈到 達 目 標〉 ５対５のミニゲームで攻め方や守り方ができること。

授業回数	授業計画の項目・内容及び到達目標　〈 科　目 〉 生涯スポーツ 2
１１	〈項目・内容〉 サッカーのゲームⅡ 〈到 達 目 標〉 フルコートで攻め方や守り方ができること。
１２	〈項目・内容〉 サッカーのゲームⅢ 〈到 達 目 標〉 フルコートで攻め方や守り方ができること。
１３	〈項目・内容〉 技能テストⅠ
１４	〈項目・内容〉 技能テストⅡ
１５	〈項目・内容〉 テニス、サッカーのまとめ

外国語科目

（英語）

英語履修案内

英語学習の意義と指導目標

国際化、情報化が急速に進展する今日、英語がますます重要なものになってきていることは言うまでもない。例えば、現在、世界的に見ると、インターネット、Eメールなどの約90%が英語で行われており、それも今後は95%以上になると見積もられている。国際語としての英語を使いこなせるようになるためには、世界の国々の文化的多様性や普遍性を学ぶことで他民族の心を理解し、グローバルな視野を持つことによって真の実践的コミュニケーション能力を高めることが必要である。

語学教育部では、このような視点から、学生が２１世紀の国際舞台で活躍できるような英語力を身につけることを目指し、次のような指導目標を設定している。

第一に、今日の情報化時代に対応し、さまざまな情報を正確かつ迅速に読み取り、読み取った情報を処理する能力を養う。「英語を学ぶ」という段階から「英語で学ぶ」という段階へ、脱皮が必要である。

第二に、今日の国際化時代に対応し、情報を伝達したり、自分の意見や気持ちを表現したりすることができる発信型コミュニケーション能力を養う。「英語を学ぶ」ことから「英語を使う」ことへ、発想を転換することが必要である。

第三に、今日の国際社会の中で留学をしたり、仕事をしたりするのに必要な英語力の習得を目指し、文化理解と文化発信の手段としての「上級の英語力」を育成する。

第四に、TOEICなどの英語能力試験において、高い得点を得ることができる実用的な英語力を身につける。

最後に、各学部の特性を配慮し、英語で書かれた「専門の文献を読む力」を向上させる。併せて、英語と日本語の発想の違いを理解したり、随筆や文学作品を「じっくり味わう力」を身につける。

語学教育部では以上のような技術や能力を養成するために、英語コミュニケーション、オーラルコミュニケーション、イングリッシュ・カルチャーセミナーなどの英語科目を開講している。英語科目はグレード制を採用しており、習熟度に応じた科目を受講することになっている。

英語科目

科　　目	配当学年	単位	学期	備　　考
英語コミュニケーション 1 英語コミュニケーション 2	1 1	2 2	前 後	
英語コミュニケーション 3 英語コミュニケーション 4	1 1	2 2	前 後	
英語コミュニケーション 5 英語コミュニケーション 6	2 2	1 1	前 後	
英語コミュニケーション 7 英語コミュニケーション 8	2 2	1 1	前 後	
英語コミュニケーション 9 英語コミュニケーション 10	2 2	1 1	前 後	
オーラルコミュニケーション 1 オーラルコミュニケーション 2	1 1	1 1	前 後	
オーラルコミュニケーション 3 オーラルコミュニケーション 4	2 2	1 1	前 後	受講するにはオーラルコミュニケーション1・2の単位を取得しているか、TOEIC400 点以上が必要
オーラルコミュニケーション 5 オーラルコミュニケーション 6	3 3	1 1	前 後	受講するにはオーラルコミュニケーション3・4の単位を取得しているか、TOEIC470 点以上が必要
イングリッシュカルチャーセミナー1	2	1	前	

＊2 単位は週 2 回の授業、1 単位は週 1 回の授業

英語科目概要

英語コミュニケーション１　　前期

速読能力の向上と基礎語彙力の養成を目的とする。内容理解に重点を置き、文の構造、文法、パラグラフの構成など、読みに必要な事項を確認しながら、英文の概要、要点を速く的確に読みとる力をつけていく。併せて基本的なリスニング練習を行い、リスニング能力の向上を図る。これらの訓練により TOEIC に対応できる基礎力を養う。

英語コミュニケーション２　　後期

この科目は英語コミュニケーション１の内容をやや高度にしたもので、読解力と語彙力を強化し、併せて一層進んだリスニング力を身につけることを目標とする。

英語コミュニケーション３　　前期

新聞や雑誌の英語、広告、ビジネス・レターなどの語彙を習得し、要点をすばやく読みとる速読力の向上を図る。また比較的平易なオフィスでの英語を聞き取る訓練を行う。

英語コミュニケーション４　　後期

この科目は、英語コミュニケーション３の内容をやや高度にしたもので、オフィスでの英語をパラグラフリーディングしたりトピックを要約したりする能力を養う。また、やや高度なリスニングの訓練を行う。

英語コミュニケーション５　　前期

専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。内容は、原則として各学部に対応したものとし、人文系は文学、言語、比較文化など、社会系はビジネス、政治など、自然系は科学技術、環境問題などを題材とする。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化することを目標とする。

英語コミュニケーション６　　後期

この科目は英語コミュニケーション５の内容をやや高度にしたもので、読解力と語彙力を強化し、一層進んだ英語力を身につけることを目標とする。

英語コミュニケーション７　　前期

TV、ラジオのニュース・映画の英語のリスニング能力と自己表現力の向上を目標とする。TV、ラジオのニュース・映画の英語の語彙習得後、聞こえにくい音、音の連結、ストレスなどの確認を行う。またニュースの内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめることを学ぶ。

英語コミュニケーション８　　後期

この科目は英語コミュニケーション７の内容をやや高度にしたもので、さらに進んだ TV、ラジオのニュースや映画の英語のリスニング能力と自己表現力の向上を目指す。

英語コミュニケーション９　　前期

上級レベルの英語力を養う。英語圏へ留学をしたり、英語を使って仕事をしたりするのに必要な英語力を養成することを目標とする。エッセイや記事などを読んだり、ニュースやスピーチを聞いたりして、概要・要点をまとめ、自分の意見や感想を英語で述べる訓練をする。

英語コミュニケーション 10　　後期

この科目は英語コミュニケーション９の内容をやや高度にしたもので、さらに上級の英語力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション１　　前期

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面（挨拶、自己紹介、電話、買物、レストランでの注文、道案内、予約など）や機能（許可、依頼、提案など）に応じた会話力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション２　後期

この科目はオーラルコミュニケーション１の内容の上に、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。

オーラルコミュニケーション３　前期

（この科目の受講はオーラルコミュニケーション１・２の単位を取得しているか、またはTOEIC400点が必要）

場所、人、物や何かのプロセスについて説明したり、簡単なスキットを創作したり発表したりして、基礎的な会話表現力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション４　後期

この科目は、オーラルコミュニケーション３の内容の上に、思い出、物語などのナレーション、比較・対照、原因・結果などの表現を含んだ、さまざまな場面での会話表現力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション５　前期

（この科目の受講はオーラルコミュニケーション３・４の単位を取得しているか、またはTOEIC470点が必要）

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少し付け加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション６　後期

この科目は、オーラルコミュニケーション５の内容の上に、簡単なスピーチやディベートをして、一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

イングリッシュカルチャーセミナー１　　前期

英語圏の国の文化を通して英語をゼミ形式で学ぶ。英語を読み、課題について自分なりに解決して、議論したり、発表したりすることによって、英語という言語に対する理解力を深め、グローバルな視野と課題解決能力を身につける。

英語科目履修案内

英語科目は、卒業までに**最低８単位履修**することが必要です。各自の目的や能力に合わせて、履修モデルやQ&Aを参考に履修計画を立ててください。

１．８単位履修モデル
(A) 大学生として必要な英語力を養う。

２．10単位履修モデル
(B) リスニングとスピーキングの力を強化する。
(C) リーディングとライティングの力を強化する。
(D) リーディングとリスニングの力を強化する。

３．12単位履修モデル
(E) ノン・ネイティブとして十分なコミュニケーション能力をつける。
(F) 特に口頭によるコミュニケーション能力を強化する。
(G) 英語圏の大学へ留学する。
(H) 英語だけでなく英語圏の文化も学ぶ。

履修モデル	1年		2年	3年	4年
8単位	英語コミュニケーション1・2 英語コミュニケーション3・4 （2つのうちから1つ） オーラルコミュニケーション1・2	(A)	英語コミュニケーション5・6		
10単位	英語コミュニケーション1・2 英語コミュニケーション3・4 （2つのうちから1つ） オーラルコミュニケーション1・2	(B)	英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4		
		(C)	英語コミュニケーション5・6 ライティング1・2		
		(D)	英語コミュニケーション5・6	英語コミュニケーション7・8	
12単位	英語コミュニケーション1・2 英語コミュニケーション3・4 （2つのうちから1つ） オーラルコミュニケーション1・2	(E)	英語コミュニケーション5・6	英語コミュニケーション7・8	英語コミュニケーション9・10
		(F)	英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4	オーラルコミュニケーション5・6	
		(G)	英語コミュニケーション5・6		
		(H)	英語コミュニケーション5・6	イングリッシュカルチャーセミナー	

①**〈履修登録の時期は〉**
すべての英語科目は、前期も後期も４月に履修登録します。
②**〈前期科目が不合格になったら〉**
前期科目の単位が取れなくても、後期科目は履修できます。
③**〈前期科目は合格、後期科目は不合格になったら〉**
前期科目の単位が取れていれば、上位科目を履修できます。
④**〈前期科目は不合格、後期科目は合格になったら〉**
後期科目の単位が取れていれば、上位科目を履修できます。
⑤**〈前期科目も後期科目も不合格になったら〉**
上位科目の履修はできません。再履修してください。

☆検定試験等による単位認定について☆

次のスコア（級）をとれば、該当科目を 100 点で成績評価する。	
TOEIC470 点～545 点	→２単位（英語コミュニケーション５・６の単位として認定）
TOEIC550 点～625 点/ TOEFL173(500)点～212(549)点	→４単位（英語コミュニケーション５・６・７・８の単位として認定）
TOEIC630 点以上/ 英検準１級/ TOEFL213(550)点以上	→６単位（英語コミュニケーション５・６・７・８・９・１０の単位として認定）
海外英語研修	→２単位（留学英語１・２の単位として認定）

＊TOEFL の得点は先にコンピューター受験、（ ）内にペーパー受験の基準を示しています。

１．１年次後期配当科目「英語コミュニケーション２」、「英語コミュニケーション４」は英語実力試験を成績評価に加える。

２．２年次配当科目「英語コミュニケーション」は TOEIC/英検/TOEFL で単位認定(1)TOEIC470 点～545 点を取得すれば、「英語コミュニケーション５・６」（２単位)を 100 点で認定する。
(2)TOEIC550 点～625 点/TOEFL173(500)点～212(549)点を取得すれば、「英語コミュケーション５・６」「英語コミュニケーション７・８」(計４単位)を 100 点で認定する。
(3)TOEIC630 点以上/英検準１級/TOEFL213(550)点以上を取得すれば、「英語コミュニーション５・６」「英語コミュニケーション７・８」「英語コミュニケーション９・10」(計６単位)を 100 点で認定する。
※２年次の前期に所定のスコアを取得した場合は、前期・後期とも 100 点で認定する。後期に所定のスコアを取得した場合は、前期の単位を取得していない場合に限り、前期・後期とも 100 点で認定する。すでに前期の単位を取得していれば後期のみ 100 点で認定する。
※単位認定は、学生本人が申請した場合に限る。

３．海外英語研修によって単位を認定
本学が主催する海外英語研修に参加すれば、「留学英語１・２」として認定する。成績は、現地教員と本学の引率教員が評価する。

４．単位認定の申請について
TOEIC/英検/TOEFL で所定のスコア（級）を取得した場合は、下記の期間に認定書（コピー不可）を持参の上、**学務部学務第１課（１０号館１階）**に申請すること。

前期	１年～３年	平成 15 年９月 10 日までに
後期	１年	平成 16 年４月１日～４月 10 日
後期	２年・３年	平成 16 年１月 21 日～２月５日

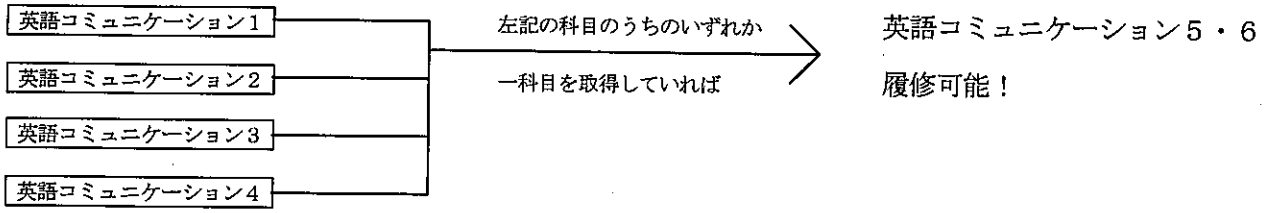
☆英語実力試験 / TOEIC について☆

本学では、「基礎英語２」、「英語コミュニケーション２」、「英語コミュニケーション４」を受講している１年生全員を対象として、平成 15 年 11 月中旬（予定）に英語実力試験を授業時間内で実施します。英語実力試験は、マークシート方式で、TOEIC の形式です。

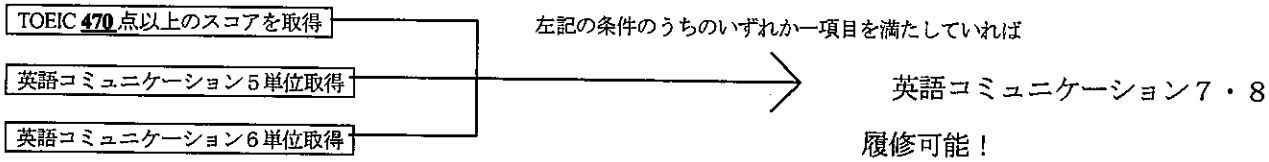
1．英語実力試験の得点は、「英語コミュニケーション２」、「英語コミュニケーション４」の成績に最高 20 点加味されます。「基礎英語２」の成績には加味されません。
2．英語実力試験の得点は、２年次配当科目「英語コミュニケーション５・６」（習熟度）のクラス編成に使用されます。
3．英語実力試験で一定の得点を取った学生は、平成 16 年１月下旬（予定）に実施する学内 TOEIC（受験料は大学負担）を受験できます。
4．TOEIC で所定の得点を取った学生には、「英語コミュニケーション５・６」、「英語コミュニケーション７・８」「英語コミュニケーション９・10」の単位が認定されます。

外国語科目（英語）の履修制限

英語コミュニケーション５・６の履修条件

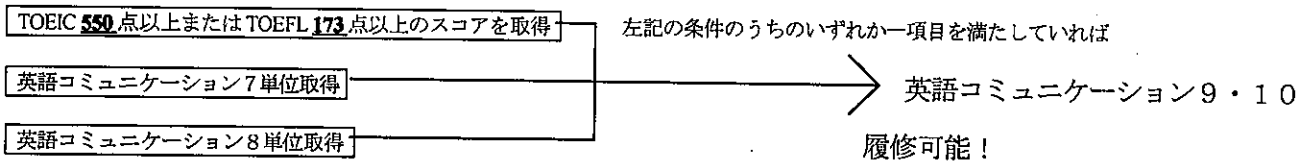


英語コミュニケーション７・８の履修条件



＊TOEIC スコアによる単位認定には所定の手続きが必要です。手続きを行わなければ履修条件も満たすことができません。

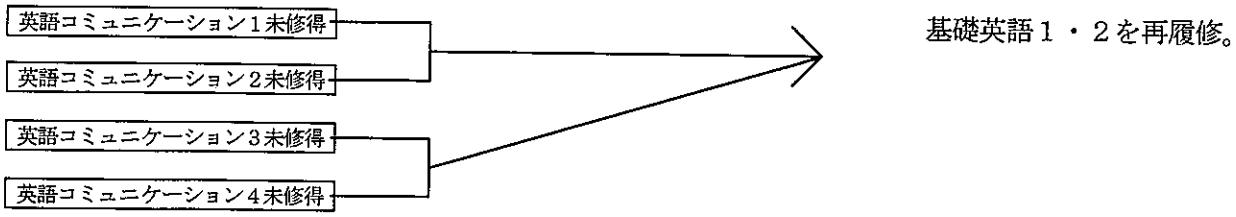
英語コミュニケーション９・１０の履修条件



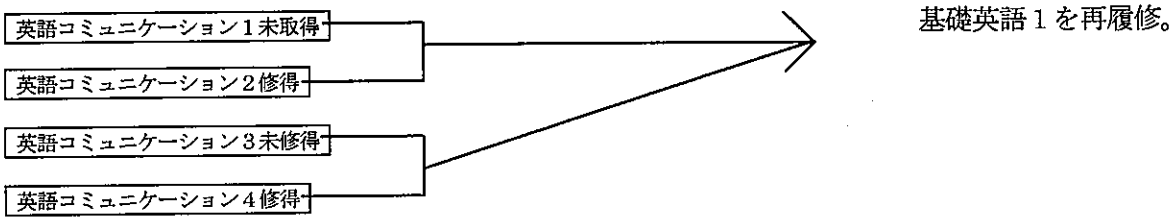
＊TOEIC・TOEFL スコアによる単位認定には所定の手続きが必要です。手続きを行わなければ履修条件も満たすことができません。

＜再履修について＞

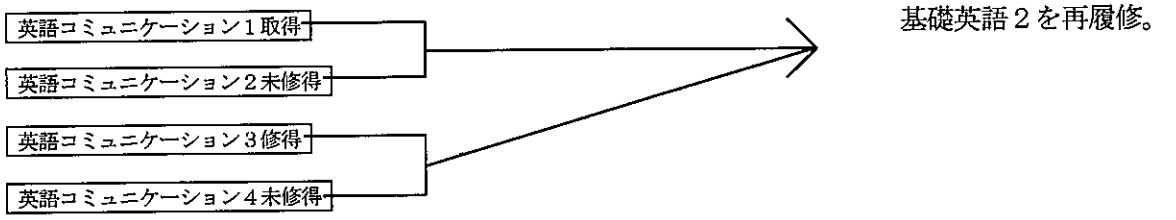
タイプA(前期科目も後期科目も未修得)



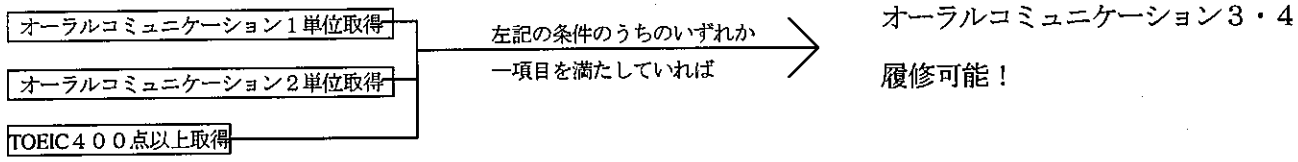
タイプB(前期科目のみ未修得)



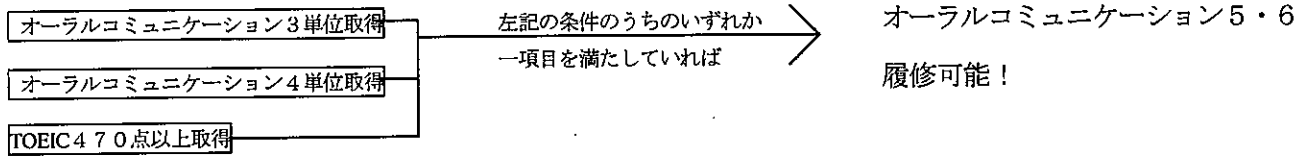
タイプC(後期科目のみ未修得)



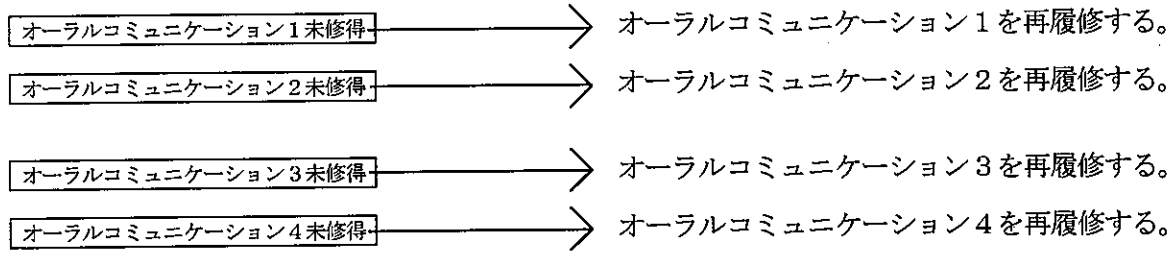
オーラルコミュニケーション３・４の履修条件



オーラルコミュニケーション５・６の履修条件



＜再履修について＞



１年生の英語 Q&A

Q１ たくさんの英語科目がありますが、どれをとったらいいのかわかりません。

A　１年生は、基礎英語１・２、英語コミュニケーション１・２、英語コミュニケーション３・４の中からアチーブメントチェックで指定されたものを１つと、オーラルコミュニケーション１・２を履修してください。どの科目も、すべて指定クラスです。

Q２ 英語は卒業までに何単位とればよいのですか？

A　外国語科目(英語・初修外国語)の単位として１２単位必要です。英語で最低８単位必要です。また英語のみで１２単位をとることも可能です。

Q３ 成績はどのように評価されるのですか？

A　前期は、担当教員が定期試験に平常点（出席・授業参加・小テスト・提出物などを含む）を加味して１００点満点で評価します。後期は、英語コミュニケーション２と英語コミュニケーション４のクラスでは、担当教員が定期試験に平常点（出席・授業参加・小テスト・提出物などを含む）を加味した８０点と、英語実力試験における得点を２０点満点に換算して加えた合計１００点満点で評価します。

※　１年生の１１月に英語実力試験を実施予定です。

Q４ 遅刻や欠席はどのように扱われますか？

A　半期で３５％以上欠席すれば不合格です。遅刻は、定刻より３０分以内であれば遅刻、それ以上は欠席扱いになります。ただし授業は受けてください。傷病、忌引きなど、正当な理由で休む場合は、証明するものを持参の上、担当者に申し出てください。

Q５ 前期と後期でクラスを変わることができますか？

A　変わることはできません。クラスも担当の先生も同じです。

Q６ ライティング１・２、イングリッシュカルチャーセミナー１は、１年生は履修できますか？

A　できません。ライテイングは２年生、イングリッシュカルチャーセミナーは３年生になってから履修してください。

Q７ 留学英語１・２は、１年生は履修できますか？

A　できます。本学主催の海外英語研修に参加して単位をとることも可能です。参加条件や費用など、くわしいことについては留学生センターに問い合わせてください。

Q８ 海外英語研修に参加すると、単位はどうなりますか？

A　本学主催の海外英語研修は「留学英語 1・2」の単位として認定されます。ただし、成績は現地教員と本学の引率教員が評価します。

２年生以上の英語 Q&A

Q９　１年生で英語コミュニケーション１・２（または英語コミュニケーション３・４）とオーラルコミュニケーション１・２の単位をとったのですが、これから何をとったらいいですか？

A　２年生は、原則として英語コミュニケーション５・６を履修してください。また、例外事項については、履修モデルを参照してください。

Q10　2年生の英語コミュニケーション5・6のクラスは、どうなりますか？

A　1年次、11月実施の英語実力試験のスコアによってクラスが決定されます。なお、TOEIC を受験した場合はそのスコアにより、下記のように飛び級ができます。

(1) 470 点～545 点の場合は、英語コミュニケーション5・6の単位を認定の上、英語コミュニケーション7・8を履修できます。

(2) 550 点～625 点の場合は、英語コミュニケーション5・6・7・8の単位を認定の上、英語コミュニケーション9・10 を履修できます。

(3) 630 点以上の場合は、英語コミュニケーション5・6・7・8・9・10の単位を認定します。

※　個人で受けた場合は、Q12、13を参照してください。

Q11　英語コミュニケーション5・6、英語コミュニケーション7・8、または英語コミュニケーション9・10を履修し、前期中に受けたTOEICで所定のスコアが取れたら、成績評価はどうなるのですか？

A　所定のスコアを取り、申請すれば、前期後期とも100点で評価されます。

Q12　英語コミュニケーション5・6、英語コミュニケーション7・8、または英語コミュニケーション9・10を履修し、後期中に受けたTOEICで所定のスコアが取れたら、成績評価はどうなるのですか？

A　所定のスコアを取り、申請すれば、後期は100点で認定されます。また、前期の単位を取得していない場合に限り前期も100点で認定されます。すでに前期の単位を取得していれば、前期の成績は変更できません。

Q13　TOEICで所定のスコアをとった場合、いつ申請すればいいのですか？

A　前期は2003年9月10日までに、後期は2004年1月21日～2月5日に認定書（コピー不可）を持参の上、**学務部学務第1課**に申請してください。

※申請有効期間は所定のスコア(級)取得後1年間有効です。

Q14　TOEICで所定の点数がとれていたけど、申請するのを忘れた場合はどうなるのですか？

A　申請を忘れたのは本人の責任ですから、評価の変更は行いません。忘れずに申請するようにしてください。

Q15　2年のとき英語コミュニケーション5・6を履修し、どちらも良の評価しかもらえず、3年のときにTOEICで470点とれたとしたら、成績評価は差し替えてもらえますか？

A　評価した後は、差し替えることはできません。

Q16　1年のとき基礎英語1・2、英語コミュニケーション1・2、または英語コミュニケーション3・4の両方とも単位がとれませんでした。どうしたらいいのですか？

A　基礎英語1・2、英語コミュニケーション1・2、英語コミュニケーション3・4それぞれの組み合わせにおいていずれの科目も取得していない場合は、2年生の英語コミュニケーション5・6を履修することはできません。基礎英語1・2を再履修してください。

※基礎英語1、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3を落とした場合は、基礎英語1を履修します。

※基礎英語2、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4を落とした場合は、基礎英語2を履修します。

Q17　1年のとき基礎英語1・2、英語コミュニケーション1・2、または英語コミュニケーション3・4のうち、いずれか一方だけ単位をとりました。英語コミュニケーション5・6を履修できますか？

A　できます。英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ5・6の履修と基礎英語1、または基礎英語2の再履修が可能です。

※基礎英語1、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3を落とした場合は、基礎英語1を履修します。

※基礎英語2、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4を落とした場合は、基礎英語2を履修します。

Ｑ１８　オーラルコミュニケーション３・４の両方とも単位がとれませんでした。どうしたらいいのですか？

Ａ　再履修クラス（オーラルコミュニケーション ３・4）を設けていますので、そこで履修してください。オーラルコミュニケーション３を落とした場合は３を再履修し、オーラルコミュニケーション４を落とした場合はオーラルコミュニケーション４を再履修します。どちらか一方の単位が取得できていればオーラルコミュニケーション５・６の履修は可能です。どちらも取得できていなければ５・６は履修できません。

Ｑ１９　オーラルコミュニケーション４の単位がとれませんでしたが、再履修クラスをどうしてもとらなければいけませんか？

Ａ　必ずしもとる必要はありません。オーラルコミュニケーション３の単位がとれていれば、５・６の履修は可能です。ただし、卒業必要単位を満たすように注意してください。

Q20　１年のとき本学主催の海外英語研修に参加し、留学英語１・２の単位を認定してもらったのですが、もう１度英語研修に参加できますか？

Ａ　単位は認定されませんが、参加はできます。また、前年度より良い成績をとっても評価の差し替えはしません。

Q21　２年のとき、英語コミュニケーション６を落としたのですが、３年で英語コミュニケーション７・８を履修できますか？

Ａ　できます。英語コミュニケーション７・８を履修するためには、英語コミュニケーション５・６のどちらか一方の単位を取得しているか、TOEIC470 点～545 点を取っていなければなりません。（所定の手続きを済ませ、単位の認定を受けていること）

Q22　２年のとき、英語コミュニケーション５を落としたので、もう一度履修したいと思います。どうしたらいいのですか？

Ａ　英語コミュニケーション５・６については、それぞれ再履修クラスを設けていますので、そこで履修してください。

Q23　英語コミュニケーション７・８の単位をとらず、英語コミュニケーション９・10 をとることはできますか？

Ａ　できません。英語コミュニケーション９・10 を履修するためには、英語コミュニケーション７・８のどちらかの単位を取得しているか、TOEIC550 点～625 点 / TOEFL173(500)点～212(549)点を取っていなければなりません。（所定の手続きを済ませ、単位の認定を受けていること）

科目	英語コミュニケーション1	開講年次	1	担当者	斉藤裕己 磯崎恵子 藤原浩一
		開講期	前期		
		単位数	2		

1 授業概要	TOEICで高得点を取ることを目的とする。練習問題をこなしていくことでTOEICの問題形式に慣れ、単語や熟語を強化することによって基礎力を固めていく。 リスニング、リーディング両方の力をつけられるよう、授業を進める。
2 教科書	*Active Toeic Test*、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、成美堂 *Word Builder*、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 1	第16講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 5
第2講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 1	第17講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 6
第3講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 2	第18講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 6
第4講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 2	第19講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 7
第5講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 3	第20講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 7
第6講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 3	第21講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 1
第7講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 1	第22講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 1
第8講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 1	第23講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 2
第9講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 2	第24講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 2
第10講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 2	第25講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 3
第11講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 3	第26講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 3
第12講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 3	第27講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 4
第13講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 4	第28講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 4
第14講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 4	第29講 Chapter 4 TOEIC 総仕上げ
第15講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 5	第30講 定期試験

科目	英語コミュニケーション2	開講年次	1	担当者	斉藤裕己 磯崎恵子 藤原浩一
		開講期	後期		
		単位数	2		

1 授業概要	日常生活にまつわるストーリーに親しみながら、速読能力の向上と基礎語彙力の養成を目的とする。内容理解に重点を置き、文の構造、文法、パラグラフの構成など、読みに必要な事項を確認しながら、英文の概要、要点を速く的確に読み取る力をつけていく。併せて基本的なリスニング練習を行い、リスニング能力の向上を図る。
2 教科書	*Real Stories in the News*、C. Shoemaker他、成美堂 *Word Builder*、 近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Fast Pigeons Help Photographer	第16講 Neighbor Children Are Mighty Heroes
第2講 Fast Pigeons Help Photographer	第17講 Gorilla Saves Little Boy
第3講 Group Helps Others to Build Houses	第18講 Gorilla Saves Little Boy
第4講 Group Helps Others to Build Houses	第19講 Falling Boy Bounces off Woman
第5講 Dog Is Girl's Bridge to the World	第20講 Falling Boy Bounces off Woman
第6講 Dog Is Girl's Bridge to the World	第21講 Basketball Stars Become Hip-Hop Singers
第7講 Dolls Teach What It's Like to Be Parents	第22講 Basketball Stars Become Hip-Hop Singers
第8講 Dolls Teach What It's Like to Be Parents	第23講 Man Discovers He Can Communicate
第9講 McDonald's Opens Restaurant in New Delhi	第24講 Man Discovers He Can Communicate
第10講 McDonald's Opens Restaurant in New Delhi	第25講 Titanic Postcard Helps Save a Life
第11講 Canadian Company Wants Icebergs	第26講 Titanic Postcard Helps Save a Life
第12講 Canadian Company Wants Icebergs	第27講 Frenchman's Dream
第13講 This Robot Loves People	第28講 Frenchman's Dream
第14講 This Robot Loves People	第29講 100-year-old Woman Becomes U.S. Citizen
第15講 Neighbor Children Are Mighty Heroes	第30講 定期試験

科目	英語コミュニケーション3	開講年次	1	担当者	北山 環 樋口忠彦
		開講期	前期		
		単位数	2		

1 授業概要	TOEICで高得点を取ることを目的とする。練習問題をこなしていくことでTOEICの問題形式に慣れ、単語や熟語を強化することによって基礎力を固めていく。 リスニング、リーディング両方の力をつけられるよう、授業を進める。
2 教科書	*Active Toeic Test*、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、成美堂 *Word Builder*、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 1	第16講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 5
第2講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 1	第17講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 6
第3講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 2	第18講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 6
第4講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 2	第19講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 7
第5講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 3	第20講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 7
第6講 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 3	第21講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 1
第7講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 1	第22講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 1
第8講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 1	第23講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 2
第9講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 2	第24講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 2
第10講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 2	第25講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 3
第11講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 3	第26講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 3
第12講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 3	第27講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 4
第13講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 4	第28講 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 4
第14講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 4	第29講 Chapter 4 TOEIC 総仕上げ
第15講 Chapter 2 TOEIC Part 別対策 Section 5	第30講 定期試験

科目	英語コミュニケーション4	開講年次	1	担当者	北山 環 樋口忠彦
		開講期	後期		
		単位数	2		

1 授業概要	新聞記事やオンライン・ニュースの中から話題性が高いものを取り上げ、ニュース英語の取得を目指す。バラエティに富んだ練習問題をこなすことで、高度な英語力の養成を図りたい。
2 教科書	*Newspaper English 2003／2004 edition*、中村他、成美堂 *Word Builder*、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Introduction	第16講 Unit 12 A & B
第2講 Unit 1 A & B	第17講 Unit 13 A & B
第3講 Unit 2 A & B	第18講 Unit 14 A & B
第4講 Unit 3 A & B	第19講 復習 と まとめ
第5講 復習 と まとめ	第20講 Unit 15 A & B
第6講 Unit 4 A & B	第21講 Unit 16 A & B
第7講 Unit 5 A & B	第22講 Unit 17 A & B
第8講 Unit 6 A & B	第23講 Unit 18 A & B
第9講 復習 と まとめ	第24講 復習 と まとめ
第10講 Unit 7 A & B	第25講 Unit 19 A & B
第11講 Unit 8 A & B	第26講 Unit 20 A & B
第12講 Unit 9 A & B	第27講 Unit 21 A & B
第13講 Unit 10 A & B	第28講 Unit 22 A & B
第14講 復習 と まとめ	第29講 総まとめ
第15講 Unit 11 A & B	第30講 定期試験

科目	オーラルコミュニケーション 1	開講年次	1	担当者	グラント、トラスコット、ヴァンダービルト、ウィツェド、パトリック
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講　授業の目標や説明、挨拶
第2講　自己紹介、飛行機内での会話
第3講　依頼、食べ物の注文
第4講　許可、目的の説明
第5講　銀行での話し、数字、数えること
第6講　ホテルでの会話、提案
第7講　道案内
第8講　復習レッスン
第9講　学生の発表
第10講　電話の会話、招待、ホームステイ
第11講　病院での会話
第12講　予定、予約、計画
第13講　レストランでの注文
第14講　家族の話
第15講　期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 2	開講年次	1	担当者	グラント、トラスコット、ヴァンダービルト、ウィツェド、パトリック
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	この科目はオーラルコミュニケーション 1の内容の上に初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト (25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 夏休みについての話し
第2講 外食、チップなどの習慣のこと
第3講 好き嫌い、趣味
第4講 相手の意見、意見を尋ねる
第5講 ホームステイでの話し、日本について
第6講 旅行、交通
第7講 買い物
第8講 復習レッスン
第9講 学生の発表
第10講 郵便
第11講 情報の尋ね方
第12講 感謝、感情
第13講 空港、総合復習
第14講 学生の発表
第15講 期末試験

科目	英語コミュニケーション5	開講年次	2	担当者	中本明子 谷口弘美
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化する。併せて、TOEICの受験対策も行い、総合的な英語力の向上を目指す。
2 教科書	*Enjoying English for Science of the 21st Century*、椋平他、松柏社 *Successful Steps for the TOEIC Test*、塚野他、成美堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講　Unit 1 20XX年、予言の行方
第2講　Unit 2 ネットで気軽にキャンパス体験
第3講　TOEIC Test
第4講　Unit 3 未来のおうちはアリババ気分
第5講　Unit 4 自宅でバッチリ"E"仕事
第6講　TOEIC Test
第7講　Unit 5 ロボット時代の国際理解
第8講　Unit 6　幹まで"うまい"ハイチのバナナ
第9講　TOEIC Test
第10講　Unit 7　不健康な現代人は"センイ"をもつかむ
第11講　Unit 8　50にしてITの必要を知る
第12講　TOEIC Test
第13講　Unit 9　いやし系アロマの科学
第14講　Unit 10　過ぎた操作は人類のためならず
第15講　定期試験

科目	英語コミュニケーション6	開講年次	2	担当者	中本明子 谷口弘美
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化する。併せて、TOEICの受験対策も行い、総合的な英語力の向上を目指す。
2 教科書	*Enjoying English for Science of the 21st Century*、椋平他、松柏社 *Successful Steps for the TOEIC Test*、塚野他、成美堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講　Unit 11　ケータイ社会の心はロンリー
第2講　Unit 12　街も心もバリアは無用
第3講　TOEIC Test
第4講　Unit 13　海底に眠る"夢"のエネルギー
第5講　Unit 14　リサイクルに不可能なし
第6講　TOEIC Test
第7講　Unit 15　オンオイルでもっと"きれい"に
第8講　Unit 16　効くも効かぬも飲み方次第
第9講　TOEIC Test
第10講　Unit 17　はるか上空の見張り番
第11講　Unit 18　"じしん"たっぷり？噴火予知
第12講　TOEIC Test
第13講　Unit 19　腹式呼吸に何でもおまかせ
第14講　Unit 20　「日本じゃ関係ない」とは"水"くさい
第15講　定期試験

科目	英語コミュニケーション5	開講年次	2	担当者	越川菜穂子 葦原英昭
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化する。併せて、TOEICの受験対策も行い、総合的な英語力の向上を目指す。
2 教科書	*Breakthrough*、瀬谷他、南雲堂 *Successful Steps for the TOEIC Test*、塚野他、成美堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	Chapter 1	World's Ocean Warming
第2講	Chapter 2	The Age of Robots
第3講	TOEIC Test	
第4講	Chapter 3	Science of the Very Smnall
第5講	Chapter 4	Designer Babies
第6講	TOEIC Test	
第7講	Chapter 5	Green Tea and Our Health
第8講	Chapter 6	Coming to Grips with Killer Microbes
第9講	TOEIC Test	
第10講	Chapter 7	The Brave New Pharmacy
第11講	Chapter 8	London Cabblies
第12講	TOEIC Test	
第13講	Chapter 9	When Computers Exceed Human Intelligence
第14講	Chapter 10	Water, Water Everywhere
第15講	定期試験	

科目	英語コミュニケーション6	開講年次	2	担当者	越川菜穂子 葦原英昭
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化する。併せて、TOEICの受験対策も行い、総合的な英語力の向上を目指す。
2 教科書	*Breakthrough*、瀬谷他、南雲堂 *Successful Steps for the TOEIC Test*、塚野他、成美堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	Chapter 11	Beyond Cloning
第2講	Chapter 12	Hearing Ear Dogs
第3講	TOEIC Test	
第4講	Chapter 13	Seeds of Sissent
第5講	Chapter 14	Smart Cars, Smart Highways
第6講	TOEIC Test	
第7講	Chapter 15	Travel to the Red Planet is Not Too Far Off
第8講	Chapter 16	Pheromones
第9講	TOEIC Test	
第10講	Chapter 17	People and Animals
第11講	Chapter 18	Tigers in Danger
第12講	TOEIC Test	
第13講	Chapter 19	In the Hands of a Robot
第14講	Chapter 20	Bioethics
第15講	定期試験	

科目	英語コミュニケーション5	開講年次	2	担当者	掛谷 舞
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化する。併せて、TOEICの受験対策も行い、総合的な英語力の向上を目指す。
2 教科書	*Science Mini World*、MLH企画・制作、マクミランLH *Successful Steps for the TOEIC Test*、塚野他、成美堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	Australia's Desert Park
第2講	Building a Better Robot
第3講	TOEIC Test
第4講	The Police Robot That Thinks for Itself
第5講	9 Lives + 1 Copy
第6講	TOEIC Test
第7講	Genetic Engineering of Insects
第8講	The Man Who Makes Faces
第9講	TOEIC Test
第10講	Computers in F1
第11講	Preparing for Bioterroirism
第12講	TOEIC Test
第13講	Construction Is Turning "Green"
第14講	TOEIC Test
第15講	定期試験

科目	英語コミュニケーション6	開講年次	2	担当者	掛谷 舞
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化する。併せて、TOEICの受験対策も行い、総合的な英語力の向上を目指す。
2 教科書	*Science Mini World*、MLH企画・制作、マクミランLH *Successful Steps for the TOEIC Test*、塚野他、成美堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	The Yellow Horses
第2講	Shopping at the Dump
第3講	TOEIC Test
第4講	Electronics Take the Place of Medicine in the Fight Against Parkinson's Disease
第5講	Medical Chip Implants
第6講	TOEIC Test
第7講	NASA's Next Mission
第8講	What Do You Say?
第9講	TOEIC Test
第10講	Are Common Saying Really True?
第11講	Amazon Rain Forest
第12講	TOEIC Test
第13講	Behind the Scenes of Action Movies
第14講	TOEIC Test
第15講	定期試験

科目	英語コミュニケーション7	開講年次	3	担当者	石井重光
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	高度なリスニング能力と自己表現の向上を目指す。 GCSE、SAT, TOEFL教材を使用。 直近のTV, ラジオニュースの使用。(ディクテーション) 毎週、課題を課す。
2 教科書	プリント教材を使用
3 参考文献	
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成
第1講 導入
第2講 リスニング GCSE
第3講 リスニング GCSE
第4講 リスニング GCSE
第5講 リスニング GCSE
第6講 リスニング SAT
第7講 リスニング SAT
第8講 リスニング SAT
第9講 リスニング SAT
第10講 リスニング TOEFL
第11講 リスニング TOEFL
第12講 リスニング TOEFL
第13講 リスニング TOEFL
第14講 まとめ
第15講 前期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション8	開講年次	3	担当者	石井重光
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	高度なリスニング能力と自己表現の向上を目指す。 GCSE、SAT, TOEFL教材を使用。 直近のTV, ラジオニュースの使用。(ディクテーション) 毎週、課題を課す。
2 教科書	プリント教材を使用
3 参考文献	
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 導入
第2講 リスニング TOEFL
第3講 リスニング TOEFL
第4講 リスニング TOEFL
第5講 リスニング TOEFL
第6講 リスニング SAT
第7講 リスニング SAT
第8講 リスニング SAT
第9講 リスニング SAT
第10講 リスニング GCSE
第11講 リスニング GCSE
第12講 リスニング GCSE
第13講 リスニング GCSE
第14講 まとめ
第15講 後期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション7	開講年次	2003	担当者	真砂 薫
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	英語コミュニケーション7では、基本的に「初めてのウイスパリング同時通訳」を中心にする。 リスニングの訓練を行ないながら、内容理解、速読の能力をも養う。 またリスニングと聴解をリピーティングの訓練を通じて身につける。 このような訓練になれてきたら、それをニュース教材でも応用する。 このクラスでは、授業も、評価も演習,実習を重視する。 また家庭学習、自習が必要となる。 教材としては、本だけでなく音声教材の確保が必要である。
2 教科書	柴田バネッサ「はじめてのウイスパリング同時通訳」南雲堂1997 Nakagawa Ichiro、International News 2003/2004(Sanshusha 2003)
3 参考文献	必要に応じて授業中に指示する
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	オリエンテーション、テキスト「同時通訳」を中心に説明。
第2講	「同時通訳」PART1,LESSON1,2
第3講	「同時通訳」PART1,LESSON3,4
第4講	「同時通訳」PART1,LESSON5,6
第5講	「同時通訳」PART1,LESSSON7,8
第6講	「同時通訳」PART2,LESSON9,10
第7講	「同時通訳」PART2,LESSON 11,12
第8講	中間小テストと、まとめ
第9講	「同時通訳」PART2、LESSON 13,14
第10講	「同時通訳」PART2、LESSON 15,16
第11講	NEWS2003 UNIT1、2
第12講	NEWS2003UNIT3,4
第13講	NEWS2003 UNIT 5,6
第14講	試験準備、課題説明
第15講	前期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション8	開講年次	2003	担当者	真砂 薫
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	英語コミュニケーション7の「同時通訳」スキルの完成をめざす。 「同時通訳」後半の内容をマスターする。 引き続き演習、実習を中心に授業を進める。 NEWS 2003の教材を中心にするが、それ以外のニュース教材も追加する。 リピーティング、シャドーイングなどのスキルの追加教材も予定している。 英語コミュニケーション7と同様に、家庭学習、自習が必要である。 追加教材も含め、音声教材の確保が、宿題などのためにも是非必要である。
2 教科書	柴田バネッサ「はじめてのウイスパリング同時通訳」南雲堂1997 Nakagawa Ichiro、International News 2003/2004(Sanshusha 2003)
3 参考文献	授業中に指示する。
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 「同時通訳」 PART3 LESSON 17,18
第2講 「同時通訳」PART3, LESSON 19,20
第3講 「同時通訳」 PART3, LESSON 21,22
第4講 「同時通訳」 PART3, LESSON 23,24
第5講 NEWS 2003 UNIT7,8
第6講 NEWS 2003 UNIT9,10
第7講 NEWS 2003 UNIT 11,12
第8講 中間小テストとまとめ
第9講 NEWS 2003 UNIT 13,14
第10講 NEWS 2003 UNIT 15,16
第11講 NEWS 2003 UNIT 17,18
第12講 NEWS 2003 UNIT 19,20
第13講 その他の教材、英語学習法の研究。
第14講 試験説明とまとめ
第15講 後期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション7	開講年次		担者	宮崎 操
		開講期	前		
		単位数	1		

1 授業概要	NHK衛星放送ニュースの教科書を使って，難しいニュースというよりは身近で親しみやすい話題を学ぶ。身近な話題であっても，ニュースによく出る表現は共通なので，ニュースに強くなる。授業の手順は次のとおり。 1. Words &Phrasesを教員の後についてリピートする。 2. ビデオをみて，まず何の話題かを把握する。その時LL教室の場合はカセットに録音する。 3. 自分でテープを聴きながら，教科書の問題を解き、ディクテーションをする。 4. 本文をrepeat after the teacher, shadowing等で口頭練習する。 5. ビデオをもう1度見る
2 教科書	News Watch2,金星堂，山崎達郎Stella /M.Yamazaki
3 参考文献	nhkのホームページで，新しいニュースを仕入れておいてほしい。そのcnn,abcなども常に。見るようにしてほしい。
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 ：Unit 1
第2講 ：Unit 1
第3講 ：Unit 2
第4講 ：Unit 2
第5講 ：Unit 3
第6講 ：Unit 3
第7講 ：Unit 4
第8講 ：Unit 4
第9講 ：Unit 5
第10講 ：Unit 5
第11講 ：Unit 6
第12講 ：Unit 6
第13講 ：Unit 7
第14講 ：Unit 7
第15講　　前期試験 （試験期間中に実施）

科目	英語コミュニケーション8	開講年次		担者	宮崎 操
		開講期	後		
		単位数	1		

1 授業概要	NHK衛星放送ニュースの教科書を使って，難しいニュースというよりは身近で親しみやすい話題を学ぶ。身近な話題であっても，ニュースによく出る表現は共通なので，ニュースに強くなる。授業の手順は次のとおり。 1. Words &Phrasesを教員の後についてリピートする。 2. ビデオをみて，まず何の話題かを把握する。その時LL教室の場合はカセットに録音する。 3. 自分でテープを聴きながら，教科書の問題を解き、ディクテーションをする。 4. 本文をrepeat after the teacher, shadowing等で口頭練習する。 5. ビデオをもう1度見る
2 教科書	News Watch2,金星堂，山崎達郎Stella /M.Yamazaki
3 参考文献	nhkのホームページで，新しいニュースを仕入れておいてほしい。そのcnn,abcなども常に。見るようにしてほしい。
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 : Unit 1
第2講 : Unit 1
第3講 : Unit 2
第4講 : Unit 2
第5講 : Unit 3
第6講 : Unit 3
第7講 : Unit 4
第8講 : Unit 4
第9講 : Unit 5
第10講 : Unit 5
第11講 : Unit 6
第12講 : Unit 6
第13講 : Unit 7
第14講 : Unit 7
第15講　後期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション7	開講年次	2	担当者	三浦良邦
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	教科書は中級向けリスニング教材です。 様々なトピックスについて、listening preparation、 preview of vocabulary and sentences、rhetorical listening cues、 initial listening、mental rehearsal and review of the talk、 consolidation、recognizing information and checking accuracy などを行います。
2 教科書	Intermediate Listening Comprehension (柳善和編、松柏社、1500円)
3 参考文献	
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Napoleon
第2講 Harriet Tubman
第3講 Language
第4講 Hydoroponic Aquaculture
第5講 The News Media
第6講 Tidal Wave
第7講 Levels of Language Usage
第8講 Asian and African Elephants
第9講 Lincoln and Kennedy
第10講 The Titanic and the Andrea Doria
第11講 The American Civil War
第12講 The American Civil War
第13講 Dinosaurs
第14講 Dinosaurs
第15講 前期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション8	開講年次	2	担当者	三浦良邦
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	教科書は中級向けリスニング教材です。 様々なトピックスについて、listening preparation、 preview of vocabulary and sentences、rhetorical listening cues、 initial listening、mental rehearsal and review of the talk、 consolidation、recognizing information and checking accuracy などを行います。
2 教科書	Intermediate Listening Comprehension (柳善和編、松柏社、1500円)
3 参考文献	
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Napoleon
第2講 Harriet Tubman
第3講 Language
第4講 Hydoroponic Aquaculture
第5講 The News Media
第6講 Tidal Wave
第7講 Levels of Language Usage
第8講 Asian and African Elephants
第9講 Lincoln and Kennedy
第10講 The Titanic and the Andrea Doria
第11講 The American Civil War
第12講 The American Civil War
第13講 Dinosaurs
第14講 Dinosaurs
第15講 後期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケーション9	開講年次	2	担当者	井貫富美子
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	国際化が進むにつれて、real timeで海外のニュースを家庭で見ることができるようになった。しかし、我々日本人には "生"の英語は速すぎて、聞き取れなく、愕然とすることがしばしばである。これは、音の脱落やさまざまな音声変化が起こるため、学校で学習用に学ぶ速度の遅い英語とは異なる。何度も聞き、聞き取りの訓練をすることにより、速さや音の脱落や変化にも慣れてくる。英語力を伸ばすためには、週1回の授業以外に毎日の努力が不可欠である。授業では2週間で1章を終了する予定である。このテキストと併用して、TOEICの問題集を演習形式で学習するので、予習が必要である。
2 教科書	BBC World Understanding the News in English (Kinseido) Tactics for the TOEIC test (Sanshusha)
3 参考文献	
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	BBC World (Chapter 1)	TOEIC (Chapter 1 mini-Test)
第2講	BBC World (Chapter 1)	TOEIC (Chapter 2)
第3講	BBC World (Chapter 2)	TOEIC (Chapter 3)
第4講	BBC World (Chapter 2)	TOEIC (Chapter 4)
第5講	BBC World (Chapter 3)	TOEIC (Chapter 5)
第6講	BBC World (Chapter 3)	TOEIC (Chapter 6)
第7講	BBC World (Chapter 4)	TOEIC (Chapter 7)
第8講	BBC World (Chapter 4)	TOEIC (復習と小テスト)
第9講	BBC World (Chapter 5)	TOEIC (Chapter 8)
第10講	BBC World (Chapter 5)	TOEIC (Chapter 9)
第11講	BBC World (Chapter 6)	TOEIC (Chapter 9)
第12講	BBC World (Chapter 6)	TOEIC (Chapter 10)
第13講	BBC World (Chapter 7)	TOEIC (Chapter 10)
第14講	BBC World (Chapter 7)	TOEIC (Chapter 11)
第15講	前期試験 (試験期間中に実施)	

科目	英語コミュニケーション10	開講年次	2	担当者	井貫富美子
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	前期と同様、"生"の英語の音の脱落や、音声変化に焦点を当て、聞き取りの力が、向上するように授業を進める。 BBC Worldニュースを通して、世界のニュースが日本ではどのように扱われているかを知ることも、大切である。 進度は前期と同様、2週間で1章進む。 TOEICの問題集は徐々に難度をましてくるので、十分な予習が必要である。 後期は2週間で1章進む予定である。
2 教科書	BBC World Understanding the News in English (Kinseido) Tactics for the TOEIC test (Sanshusha)
3 参考文献	
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	BBC World (Chapter 8) TOEIC (Chapter 1 1)
第2講	BBC World (Chapter 8) TOEIC (Chapter 1 2)
第3講	BBC World (Chapter 9) TOEIC (Chapter 12)
第4講	BBC World (Chapter 9) TOEIC (Chapter 13)
第5講	BBC World (Chapter 10) TOEIC (Chapter 13)
第6講	BBC World (Chapter 10) TOEIC (Chapter 14)
第7講	BBC World (Chapter 11) TOEIC (Chapter 14)
第8講	BBC World (Chapter 11) TOEIC (Chapter 15)
第9講	BBC World (Chapter 12) TOEIC (Chapter 15)
第10講	BBC World (Chapter 12) TOEIC (Chapter 16)
第11講	BBC World (Chapter 13) TOEIC (Chapter 16)
第12講	BBC World (Chapter 13) TOEIC (Chapter 17)
第13講	BBC World (Chapter 14) TOEIC (Chapter 17)
第14講	BBC World (Chapter 15) TOEIC (Chapter 18 Mini-test)
第15講	後期試験 (試験期間中に実施)

科目	英語コミュニケイション1(再)	開講年次	2	担当者	宮田英次郎
		開講期	前期		
		単位数	2		

1 授業概要	この授業では、英語を伝達の手段として利用するために必要とされる4技能(読む・書く・聞く・話す)の基礎力の養成を目標とする。また豊富な聞き取りの練習を行い、実際にネイティヴ・スピーカーとのコミュニケーションのために不可欠となる基礎的リスニング能力の定着を目指す。
2 教科書	*A Window to the World*、倉橋他、三修社 *Word Builder*、 近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Introduction	第16講 Chapter 8
第2講 Chapter 1	第17講 Chapter 8
第3講 Chapter 1	第18講 Chapter 9
第4講 Chapter 2	第19講 Chapter 9
第5講 Chapter 2	第20講 Chapter 10
第6講 Chapter 3	第21講 Chapter 10
第7講 Chapter 3	第22講 Chapter 11
第8講 Chapter 4	第23講 Chapter 11
第9講 Chapter 4	第24講 Chapter 12
第10講 Chapter 5	第25講 Chapter 12
第11講 Chapter 5	第26講 Chapter 13
第12講 Chapter 6	第27講 Chapter 13
第13講 Chapter 6	第28講 Chapter 14
第14講 Chapter 7	第29講 まとめ
第15講 Chapter 7	第30講 定期試験

科目	英語コミュニケイション2(再)	開講年次	2	担当者	宮田英次郎
		開講期	後期		
		単位数	2		

1 授業概要	この授業では、英語を伝達の手段として利用するために必要とされる4技能(読む・書く・聞く・話す)の基礎力の養成を目標とする。また豊富な聞き取りの練習を行い、実際にネイティヴ・スピーカーとのコミュニケーションのために不可欠となる基礎的リスニング能力の定着を目指す。
2 教科書	*Say It Aloud*、三浦他、三修社 *Word Builder*、 近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂
3 参考文献	なし
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Introduction	第16講 Unit 7
第2講 Unit 1	第17講 Unit 7
第3講 Unit 1	第18講 Unit 8
第4講 Unit 2	第19講 Unit 8
第5講 Unit 2	第20講 Toeic 関連プリント
第6講 Toeic 関連プリント	第21講 Unit 9
第7講 Unit 3	第22講 Unit 9
第8講 Unit 3	第23講 Unit 10
第9講 Unit 4	第24講 Unit 10
第10講 Unit 4	第25講 Unit 11
第11講 Unit 5	第26講 Unit 11
第12講 Unit 5	第27講 Toeic 関連プリント
第13講 Toeic 関連プリント	第28講 Unit 12
第14講 Unit 6	第29講 Unit 12
第15講 Unit 6	第30講 定期試験

科目	オーラルコミュニケーション 3	開講年次	2	担当者	ロジャーズ、メルヴィル・レイ、ウィツェド、モーガン、トラスコット
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	場所、人、物や何かのプロセスについて説明したり、簡単なスキット創作したり発表したり、基礎的な会話表現力を身につけることを目標とする。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト (25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 授業の目標や説明、挨拶
第2講 自己紹介、自叙伝の書き方
第3講 自叙伝の 口頭発表
第4講 物の描写について
第5講 物の描写の 口頭発表
第6講 場所の描写について
第7講 場所の描写の 口頭発表
第8講 人の描写について
第9講 人の描写の 口頭発表
第10講 プロセスについて
第11講 プロセスの 口頭発表
第12講 復習レッスン:スキット創作
第13講 復習レッスン:スキットの準備
第14講 スキットの口頭発表
第15講 期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 4	開講年次	2	担当者	ロジャーズ、メルヴィル・レイ、ウィツェド、モーガン、トラスコット
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	この科目はオーラルコミュニケーション 3の内容の上に、思い出、物語などのナレーション、比較／対照、原因、結果などの表現を含むさまざまな場面での会話表現力の向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 夏休みについての話
第2講 物語のナレーションについて
第3講 物語のナレーションの 口頭発表
第4講 比較／対照について
第5講 比較／対照のディベート及びスキットの準備
第6講 比較／対照のディベート及びスキットの発表
第7講 原因／結果について
第8講 原因、結果の 口頭発表及びスキットの発表
第9講 日本文化についての発表のための準備
第10講 日本文化についての口頭発表
第11講 日本語についての発表のための準備
第12講 日本語についての口頭発表
第13講 自由のトピックの発表の準備
第14講 自由のトピックの口頭発表
第15講 期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 1	開講年次	1	担当者	グラント、トラスコット、ヴァンダービルト、ウィツェド、パトリック
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講　授業の目標や説明、挨拶
第2講　自己紹介、飛行機内での会話
第3講　依頼、食べ物の注文
第4講　許可、目的の説明
第5講　銀行での話、数字、数えること
第6講　ホテルでの会話、提案
第7講　道案内
第8講　復習レッスン
第9講　学生の発表
第10講　電話の会話、招待、ホームステイ
第11講　病院での会話
第12講　予定、予約、計画
第13講　レストランでの注文
第14講　家族の話
第15講　期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 2	開講年次	1	担当者	グラント、トラスコット、ヴァンダービルト、ウィツェド、パトリック
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	この科目はオーラルコミュニケーション 1の内容の上に初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト (25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 夏休みについての話
第2講 外食、チップなどの習慣のこと
第3講 好き嫌い、趣味
第4講 相手の意見、意見を尋ねる
第5講 ホームステイでの話、日本について
第6講 旅行、交通
第7講 買い物
第8講 復習レッスン
第9講 学生の発表
第10講 郵便
第11講 情報の尋ね方
第12講 感謝、感情
第13講 空港、総合復習
第14講 学生の発表
第15講 期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 1(再)	開講年次	2	担当者	カウエン
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 授業の目標や説明、挨拶
第2講 自己紹介、飛行機内での会話
第3講 依頼、食べ物の注文
第4講 許可、目的の説明
第5講 銀行での話、数字、数えること
第6講 ホテルでの会話、提案
第7講 道案内
第8講 復習レッスン
第9講 学生の発表
第10講 電話の会話、招待、ホームステイ
第11講 病院での会話
第12講 予定、予約、計画
第13講 レストランでの注文
第14講 家族の話
第15講 期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 2(再)	開講年次	2	担当者	カウエン
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	この科目はオーラルコミュニケーション 1の内容の上に初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 夏休みについての話
第2講 外食、チップなどの習慣のこと
第3講 好き嫌い、趣味
第4講 相手の意見、意見を尋ねる
第5講 ホームステイでの話、日本について
第6講 旅行、交通
第7講 買い物
第8講 復習レッスン
第9講 学生の発表
第10講 郵便
第11講 情報の尋ね方
第12講 感謝、感情
第13講 空港、総合復習
第14講 学生の発表
第15講 期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 5(再)	開講年次	3	担当者	ホーキン
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 授業の目標や説明、挨拶
第2講 家族について
第3講 食べ物について
第4講 時に関する表現ついて
第5講 住まいについて
第6講 音楽について
第7講 交通について
第8講 スポーツについて
第9講 数について
第10講 友達について
第11講 テレビについて
第12講 テレビについて
第13講 休暇について
第14講 学校の生活について
第15講 期末試験

科目	オーラルコミュニケーション 6(再)	開講年次	3	担当者	ホーキン
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	この科目はオーラルコミュニケーション 5の内容の上に簡単なスピーチやディベートをして、一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 夏休みについての話
第2講 映画について
第3講 お金について
第4講 外食について
第5講 動物について
第6講 買い物について
第7講 健康について
第8講 ファッションについて
第9講 旅行について
第10講 読書について
第11講 祭日について
第12講 デートと結婚について
第13講 信じる／信じない
第14講 法律について
第15講 期末試験

科目	イングリッシュカルチャーセミナー1	開講年次	2	担当者	K.R.カネル
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	受講者はアメリカや他の異文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだり、ディスカッションやディベートに参加して、日本と欧米を比較した口頭発表をする。
2 教科書	最初の授業で指示する。
3 参考文献	最初の授業で指示する。
4 試験方法	口頭発表
5 成績評価基準	出席(25%)、口頭発表(25%)、小テスト(25%)、宿題／レポート(25%)

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 Course Description and requirements - Language and culture

第2講 Values: religion, fashion, friendship

第3講 Media: TV, radio, magazines, newspapers, Internet

第4講 Leisure & Entertainment: sports, music, movies, travel

第5講 Health, Fitness & Medicine

第6講 Oral Presentations

第7講 Education

第8講 Male and female roles

第9講 Dating, Courtship & Marriage

第10講 Parenting

第11講 Oral Presentations

第12講 House & Home: food, housework

第13講 Work: time and money

第14講 Law & Politics

第15講 Final Presentation

科目	イングリッシュカルチャーセミナー1	開講年次	2	担当者	川西育子
		開講期	前期		
		単位数	2		

1 授業概要	アメリカ文学への誘い 19世紀の小説家ナサニエル・ホーソーン (Nathaniel Hawthorne, 1804-64) の代表作『緋文字』*(The Scarlet Letter)* (1850) を取り上げ、アメリカの文学を理解する手がかりとしたい。この作品では、植民初期のボストンを舞台にして、ヘスタ・プリン (Hester Prynne) という女性の姦通の罪とその結果が取り扱われている。 講義と演習形式で授業を進める。
2 教科書	Nathaniel Hawthorne: *The Scarlet Letter* (英潮社)
3 参考文献	『緋文字』 (岩波文庫)
4 試験方法	定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、定期試験 50% 出席状況 30% 発表 20% で評価する。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講	アメリカの歴史概観ー植民時代から19世紀まで
第2講	19世紀アメリカの文学事情
第3講	ホーソーンの生涯
第4講	ホーソーンの文学形式ーRomanceーについて
第5講	『緋文字』の序文ー「税関」について
第6講	『緋文字』を読む。 1－3 章
第7講	『緋文字』を読む。 4－6 章
第8講	『緋文字』を読む。 7－9 章
第9講	『緋文字』を読む。 10－12 章
第10講	『緋文字』を読む。 13－15 章
第11講	『緋文字』を読む。 16－18 章
第12講	『緋文字』を読む。 19－21 章
第13講	『緋文字』を読む。 22－24 章
第14講	総まとめ
第15講	定期試験 (試験期間中に実施)

科目	基礎生物学英語	開講年次	2	担当者	松田　秀秋 川畑　篤史
		開講期	後期		
		単位数	2		

1 授業概要	薬学領域の外国語(英語)文献、成書を読みこなす能力は、学業の遂行上必要不可欠である。基礎生物学、生物学においては、薬学に関連する基礎的な生物学の習得に努めた。基礎生物学英語では、このような観点から、主に生物学に関連する基礎的な資料を用いて、薬系大学生として必要な基本的英単語力、英語表現力を習得する。 本講義は小人数制で開講され、演習形式で行うので、予習が必須である。
2 教科書	適宜プリントを配布する。辞書(英和)を必ず持参すること。
3 参考文献	「医学英和大辞典」,(編)加藤勝治,(株)南山堂 「バイオテクノロジーテキストシリーズ　―　バイオ英語入門」日本バイオ技術教育学会　監修(講談社サイエンティフィク)
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 「生物化学実験で用いられる英語表現」
第2講 「生物化学反応に関する表現」
第3講 「細胞生物学,遺伝子工学に関する英語表現」
第4講 「免疫に関する英語表現」
第5講 「一般向け科学記事の読解1:エイズ」
第6講 「一般向け科学記事の読解1:癌」
第7講 「一般向け科学記事の読解1:遺伝子医療」
第8講 「胃腸系機能とその病態に関する英語表現」
第9講 「肝臓の機能と病態に関する英語表現」
第10講 「糖代謝およびその関連臓器機能と病態に関する英語表現」
第11講 「免疫系機能とその病態に関する英語表現」
第12講 「炎症系とその病態に関する英語表現」
第13講 「血液循環に関する英語表現」
第14講 「血液性状に関する英語表現」
第15講 前期・後期試験 (試験期間中に実施)

科目	基礎化学英語	開講年次	2	担当者	桑島 博 田邊元三
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	大学院進学志望者はいうまでもなく、薬学生が将来携わる実際の医療現場において、海外の幅広い情報を的確かつ迅速に理解するために、英語の読解力を養うことが必須となる。 本講義は、自然科学分野で使用頻度の高い学術用語および表現法について幅広く学び、英語の読解力を養うことを目的とする。基礎編では、化学英語で頻出するイディオムに慣れ、さらに、応用編では、薬学の専門的な英文にふれながら、化学英語の基本的な様相を把握できるよう講義をすすめていく。
2 教科書	● 「化学英語読本」宮野成二 編 (廣川書店)、2625円 ● その他に、プリントを配布する
3 参考文献	● 「わかりやすい薬学英語」伊藤智夫 他著(廣川書店) ● 「例文を中心とした薬学英語」小倉治夫 監修(廣川書店)
4 試験方法	小テスト、定期試験
5 成績評価基準	成績評価は、平常点50%(出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 元素、無機、有機化合物名のヒアリング。
第2講 慣用名 trivial name と IUPAC 名の表現法。
第3講 化学論文で繁用されるイデオム。(その1)
第4講 化学論文で繁用されるイデオム。(その2)
第5講 化学論文で繁用されるイデオム。(その3)
第6講 有機化学英語の表現法(その1):「The Beckmann Rearrangement」
第7講 有機化学英語の表現法(その2):「The Claisen Condensation」
第8講 [臨時試験]
第9講 アルカロイドの化学的性質、分布、生理活性に関する英語表現。(その1)
第10講 アルカロイドの化学的性質、分布、生理活性に関する英語表現。(その2)
第11講 ガンに関連する英単語と各種抗ガン剤。(その1)
第12講 ガンに関連する英単語と各種抗ガン剤。(その2)
第13講 ガンに関連する英単語と各種抗ガン剤。(その3)
第14講 ガンに関連する英単語と各種抗ガン剤。(その4)
第15講 前期・後期試験 (試験期間中に実施)

外国語科目
（初修）

初修外国語履修案内

二十一世紀を迎え、私たちはこれからどのような世界に生きていくのでしょうか。コンピューターやバイオテクノロジーをはじめとする最先端の科学技術の進歩が、さらに便利で快適な生活をもたらしてくれるのでしょうか。輸送手段と通信手段の驚異的な発達が、人や物の地球規模での移動と交流を今後ますます活発にし、いよいよ世界が一つに結ばれることになるのでしょうか。人類は長い間このようなユートピアを追い求め、それを実現するために計りしれないほどの時間と労力を費やしてきました。そしてたしかに、一面ではこの夢に近づきつつあるようにも見えます。しかし、ここで忘れてはいけないことがあります。それは人間がやはり画一的な機械ではなく、それぞれがおのれ自身の血と肉と精神をそなえた個性を有する生き物であるという絶対に揺るがせない事実です。効率と利便性を競う技術革新の進展によって、二十一世紀の社会では多くの分野で画一化、統一化の動きが加速することが予想されます。しかしその一方で、精神的・文化的な方面では、人間の本質である自由と創造力があらためて見直され、その結果として人々の関心は、むしろ従来以上に多様性と個性へと向かうことも考えられるのではないでしょうか。

みなさんもご承知のように、わが国では「国際化」「グローバル化」という言葉が時代のスローガンとしてもてはやされています。また、これにともない、外国語学習への関心が高まり、最近では学校で学習する以外にさらに専門語学学校に通ったり、語学習得の目的で外国に留学する人も増えています。このような現象そのものは歓迎すべきことなのでしょうが、ただ、しばしば指摘されるように、その際にあまりにも「英語」および「英語圏の国々」ばかりに人々の関心が偏りすぎている点に大きな問題が潜んでいます。おそらくここには、私たち日本人の多くが自分たち自身に対して無意識の内に抱いている「単一民族」「単一言語」という幻想が、「英語」＝「国際語」というあまりにも単純化された図式にそのまま反映されていると言わざるを得ません。しかも不幸なことに、わが国では高校まで学べる外国語はほとんど選択の余地なく英語であり、このように世界の先進諸国の中でも珍しい状況が、私たちの意識の固定化に甚大な影響を与えています。

たしかに、今や英語は人々がコミュニケーションをするための重要な手段であることは否定できません。しかし、外国語の学習の目的は、英会話の能力さえ身につければそれで達成されたことになるのでしょうか。たとえ日本人同士であっても、おたがいに相手の立場を理解していかなければ、本当のコミュニケーションなど成立しないことを、私たちは普段の経験から知っています。これと同じことが「外国人」との交流にも当てはまるでしょう。つまり、真の意味での国際感覚を身につけた人とは、何よりもまず相手の個性を尊重する人でなければならないでしょう。自然にはまったく同じものなど存在しません。この地球上には何十億という人々が生き、数千とも言われる実にさまざまな言語が混在しています。しかも、どの言語にもそれぞれの歴史があって、またそれを使用してきた人々が営々と育んできた独自の文化がその背景にあります。人々は同じ人類の一員であると同時に、それぞれが異なる文化圏に所属している無数の異なる個性でもあるのです。この事実を真剣に受けとめるならば、外国語の学習においても便利さや効率のみを唯一の規準に据

えるやり方が、生きた言葉を学ぶという目的に対して、それ自体どれほど著しい矛盾をはらんでいるかは明らかです。これからみなさんは新たに外国語を学習されるわけですが、それは初めての土地を旅行する時と同じように、新鮮な驚きと不思議な感動に満ちたものであるにちがいありません。みなさんは、未知の言語にふれるという貴重な経験を通して、外国語を学ぶ本来の喜びをあらためて味わうことができるとともに、私たちが生きる世界が多種多様であるがゆえによりいっそう豊かでもあることを肌で実感できるでしょう。まさにこの実感こそが自巳の国際化への確実な第一歩となるはずです。

初修外国語各科目のガイドライン

「ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語　基礎１、基礎２」

読み・書き・話すための基礎をつくる。辞書を便って簡単な文章を読めるようにする。挨拶や自巳紹介などの文が書けるようにする。旅行先などでの簡単な会話ができるようにする。基礎文法は、「基礎１」「基礎２」で完成し、ドイツ語は「独検４級」、フランス語は「仏検４級」、中国語は「中検４級」に相当する語学力をつける。

「ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語　応用１、応用２」

「基礎１」および「基礎２」で学んだ知識を発展させ、初級の語学力を完成させる。辞書を使ってやや複雑な文章を読めるようにする。手紙などの簡単な作文ができるようにする。場面に対応した簡単な実用会話ができるようにする。「応用１」「応用２」では、総合的な演習を積み重ねることによって、ドイツ語は「独検３級」、フランス語は「仏検３級」「中国語」は「中検３級」に相当する語学力をつける。

初修外国語各科目の履修上の注意

１．各科目はすべてそれぞれの指定クラスで受講しなければなりません。
２．各クラスの定員は５０名です。
３．第１回目の授業で受講生を確定します。希望の外国語を受講できない場合は、次年度に受講するか、あるいは、他の外国語を受講してください。
４．初年度の「基礎１」と「基礎２」は原則として同一外国語を継続して履修すること。
５．「基礎１」、「基礎２」を履修した学生は、２年次で同じ外国語の「応用１」、「応用２」を履修することが望ましい。
６．第３外国語を履修する者は、２年次で「基礎１」、「基礎２」を受講できる。

ドイツ語

ドイツ語について

ドイツ語は現在ドイツ連邦共和国以外に、オーストリア、リヒテンシュタイン、そしてスイスの約７割の地域の公用語として約１億人の人々に使用されています。したがって言葉と文化そして風土という観点からドイツを考える場合は、ヨーロッパのほぼ中央に広がる地域社会全体を念頭に描く必要があります。つまり、これらの地域はドイツ語という言語を介して歴史や文化の面で政治行政上の国境を越えた大きな共通性を有するドイツ語圏を形成しています。

さてドイツ語と日本人のかかわりは明治以後の近代化政策とともに始まりました。ドイツを手本として国の制度を整え、医学や化学、思想や音楽をはじめとする当時の先進の学術文化を学び取ろうとした先人達の努力は、たとえば、エネルギー、ゼミナール、アルバイトなどの、現在では私たちの日常生活にすっかり定着したドイツ語の単語からうかがうことができます。ご存知のように、ドイツは日本と同様に第二次世界大戦で敗戦国となり、しかも東西冷戦の中で長い間分断されてきました。統一ドイツの成立は、そのような苦難の歴史の末にようやく達成されたものでした。ヨーロッパの統合が進められ、ますます人々の交流が活発になりつつある現在、今後ドイツ語圏の国々は、地理的にも経済的にもヨーロッパの要として、ますます重要な役割を果たしていくことになるでしょう。

ところで、おそらく日本人がドイツの国民性に対して持っている印象のせいでしょうが、一般にドイツ語は「何となく難しそうだ」と思われているようです。もちろん、ドイツ語は私たち日本人が学ぶのに決してやさしい言語でありませんが、これはドイツ語にかぎらず、英語をはじめとして、いわゆる外国語全般について言えることです。ただし、ドイツ語の場合、みなさんがこれまでに学んでこられた英語と同じゲルマン語に属する言語ですから、両言語には文法や語彙に共通するところが多く、すでにある英語の知識を大いに活かすことができます。また、発音や造語法など非常に規則的で例外が少ないために、この面ではむしろ英語よりもやさしいと言えるかもしれません。何はともあれ、この機会を積極的に活用して新しい外国語の習得をめざしてがんばろうではありませんか。

＜辞書参考書＞

辞書には様々なタイプのものがあります。担当の先生の説明を聞いて適当なものを選んでください。以下に初心者向きの主なものを挙げておきます。

「アクセス独和辞典」三修社　「新アポロン独和辞典」同学社

「クラウン独和辞典」三省堂　「マイスター独和辞典」大修館

「プログレシブ独和辞典」小学館

また、月刊「基礎ドイツ語」（三修社）には、ドイツ語に関する記事の他、ドイツ語圏の文化事情などの様々な情報が紹介されています。

科目	ドイツ語基礎 1 Basic German 1	開講年次	1, 2	担当者	共 通
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	日常の具体的な生活場面で用いられるやさしい会話体の表現を中心に，ドイツ語によるコミュニケーションに必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」基礎的能力を養っていきます。 基礎語彙とポイントとなる重要な文法事項の説明、その応用練習、具体的な場面での会話表現の聞き取り、発音、内容理解に必要な語彙と文法事項の説明、確認のための練習がおおよその授業の流れです。次の授業では前回のポイントを簡単に復習してから、新しいテーマに取り組みます。 また、各場面の理解を助けるために、ドイツの生活習慣や文化、最近のドイツ事情などを紹介しながら言葉への理解を深めてゆきます。
2 教科書	三室次雄 著『ドイチュ・プラクティッシュ〈グリューン〉』(CD付き) 三修社
3 参考文献	独和辞典(「ドイツ語について」に紹介)、参考書について担当者から説明があります。
4 試験方法	定期試験・平常小テスト(記述式、発音、聞き取り、など)
5 成績評価基準	定期試験:50% 平常点(出席、授業参加、小テスト、提出物などによる評価):50% 出席率65%に満たない学生は評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 紹介:ドイツ語圏の国々と主な都市。発音(1):発音の基礎とアルファベート
第2講 復習。 発音(2):注意すべき母音・子音・つづりの読み方 デイアローク:挨拶の表現と場面
第3講 復習:デイアローク 主語になる人称代名詞 動詞:不定詞と現在人称変化(1) 練習問題
第4講 復習。ディアローク:どこへ行くの? 疑問詞 文の構造(定動詞の位置) sein と haben 練習問題
第5講 復習。ディアローク:あのひと知ってる? 名詞の性と格 定冠詞と不定冠詞 練習問題
第6講 復習。デイアローク:ねえ、知ってる?名詞の複数形 練習問題
第7講 復習:デイアローク 不規則動詞の現在人称変化 分の構造(2):副文(定動詞後置) 練習問題
第8講 復習。デイアローク:今日は歩きなの? 定冠詞類と不定冠詞類 練習問題
第9講 復習:デイアローク 人称代名詞:3格と4格 非人称主語のes 不定代名詞のman 練習問題
第10講 復習。デイアローク:ズザンネと映画に行くの 前置詞(1) 練習問題 暗誦課題:数詞
第11講 復習:デイアローク 前置詞(2) 練習問題 暗誦課題:数詞
第12講 復習。デイアローク:これすごく面白い本だわ! 形容詞(1) 練習問題
第13講 復習:デイアローク 形容詞(2) 命令・要求の表現 練習問題
第14講 総合復習と応用練習
第15講 定期試験

科目	ドイツ語基礎 2 Basic German 2	開講年次	1, 2	担当者	共 通
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	授業の目的と授業の進め方は、基礎1のそれを継続してゆきます。 基礎2では、さらに幅広い表現力と理解力を見につけることを目指してゆきます。 とくに、主文と副文、文の枠構造への理解を促し、読解力をも高め「ドイツ語応用」への橋渡しとなるようにします。
2 教科書	三室次雄 著『ドイチュ・プラクティッシュ〈グリューン〉』(CD付き) 三修社
3 参考文献	独和辞典(「ドイツ語について」に紹介)、参考書について担当者から説明があります。
4 試験方法	定期試験・平常小テスト(記述式、発音、聞き取り、など)
5 成績評価基準	定期試験:50% 平常点(出席、授業参加、小テスト、提出物などによる評価):50% 出席率65%に満たない学生は評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 1セメスター総括 デイアローク:明日は何時に出発するの?分離動詞と非分離動詞 練習問題
第2講 復習:デイアローク zu 不定詞と不定詞句の用法 練習問題
第3講 復習。デイアローク:フランクフルトに行くつもりなの 話法の助動詞(定形と枠構造) 練習問題
第4講 復習:デイアローク 未来の助動詞(定形と枠構造) 練習問題
第5講 復習。デイアローク:昨日はどこへ行ってたの? 動詞の三基本形 過去人称変化 練習問題
第6講 復習:デイアローク 現在完了:haben od. sein ? 練習問題
第7講 復習:現在完了(枠構造・副文中での定形の位置) 過去完了 未来完了
第8講 復習。デイアローク:何かお探しですか? 再帰代名詞・再帰動詞 練習問題
第9講 復習:デイアローク 形容詞・副詞の比較変化 比較表現 練習問題
第10講 復習。デイアローク:今何が上演されているか、知ってる? 受動(1)・助動詞(定形と枠構造) 練習問題
第11講 復習:デイアローク 受動(2)・完了・自動詞の受動・状態受動 練習問題
第12講 復習。デイアローク:君が行くその講演って、いったい何の話なの? 関係代名詞・関係文中での定形の位置
第13講 総合復習と補足(1):関係副詞・不定関係代名詞 序数
第14講 総合復習と補足(2):非現実の表現・接続法 ドイツ語応用へのステップ
第15講 定期試験

クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
１年　基礎　a	酒井　哲男
基礎　b	宮本　春美
基礎　c	十河　健二
２年　基礎Ｒ	平岡由美子

科目	ドイツ語応用 1 German, Advanced 1	開講年次	2	担当者	坂野 久
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	「基礎」で学んできた基本単語、基本的な会話表現、文法の要点を復習し、基礎知識の確認と補完を繰り返しながら、より豊かな会話の表現力と読解力の養成に重点をおいたドイツ語の総合的な力を養うことをめざします。 授業では、会話と読章のテキストにしたがって文法的な要点を復習、確認し、各場面で使われている語彙や表現の聞き取り、発音、応用練習を重ねながら生きた表現を身につけて行きます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の国々の生活習慣や現状についての関心をも高めていきたい。
2 教科書	三室次雄 著『ドイチュ・プラクティッシュ〈ロート〉』(CD付き) 三修社
3 参考文献	独和辞典(「ドイツ語について」に紹介)、参考書について担当者から説明があります。
4 試験方法	定期試験・平常小テスト(記述式、発音、聞き取り、など)
5 成績評価基準	定期試験:50% 平常点(出席、授業参加、小テスト、提出物などによる評価):50% 出席率65%に満たない学生は評価の対象外とすることがある。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 基礎知識の確認と復習(1) Dialog: Auf der Straße 不定詞と定動詞. 不定詞句. 疑問詞

第2講 基礎知識の確認と復習(2) Dialog +Lesetext:An der Uni. 主文の構造(定動詞の位置). 応用練習.

第3講 基礎知識の確認と復習(3) Dialog + Lesetext:Studentenleben 冠詞と名詞. 基数. 応用練習.

第4講 Dialog + Lesetext: Eine Reise nach Spanien 不規則動詞. 従属接続詞. 副文の構造. 応用練習.

第5講 Dialog + Lesetext: Motorrad oder Wagen 冠詞類. 人称代名詞. 金額の言い方. 応用練習.

第6講 Dialog + Lesetext: Freizeit und Wochenende 前置詞. 月名. 応用練習.

第7講 Dialog + Lesetext: Zimmersuche 形容詞の格変化. 命令. 応用練習.

第8講 Dialog + Lesetext:Franziska, Michael und Claudia 分離動詞. 非分離動詞. zu不定詞. 応用練習.

第9講 Dialog + Lesetext: Studium 話法の助動詞. 未来の助動詞 序数. 応用問題.

第10講 Dialog + Lesetext: Urlaub 動詞の三基本形. 過去. 現在完了. 年号の言い方. 応用練習.

第11講 総合復習(1)

第12講 総合復習(2)

第13講 読解応用練習(1)

第14講 読解応用練習(2)

第15講 定期試験

クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
	坂野　　久

フランス語

フランス語について

フランス語は、ラテン語を直接の先祖とするという意味では、スペイン語やイタリア語やルーマニア語などと兄弟関係にある言葉です。また最近とみに脚光を浴びている国際連合(UN)における公用語の一つであることからも分かるように、現在の国際政治で使用されている重要な言葉であるだけではなく、文化・学術上の言語としても重要な位置を占めています。世界の表舞台で活躍する人々や、国際的なスポーツ大会に参加する選手の中でフランス語を話す人が予想外に多いのに驚かされますが、フランス語は、フランス本国だけではなくスイスやベルギーやカナダのケベック州、さらにアフリカの数カ国の公用語として使用されている国際語なのですから、それも当然のことなのです。

このような公的な面だけではなく、文学や美術や映画など芸術の分野、あるいはファッションや料理といった私たちの日常生活に関係の深い面においても、フランス文化の影響が色濃く見られます。とりわけ文化や芸術の分野では、フランスは歴史的にも他に類のない輝かしい栄光を誇ってきましたし、現在でも世界をリードする存在であり続けているのです。またスポーツにおいても、サッカーや柔道やフィギュアスケートなどさまざまな種目で、フランスの選手たちがめざましい活躍をしているのはよく知っている人も多いでしょう。

こうしたフランス語の重要性は、ヨーロッパ連邦の国々が、ユーロによる通貨統合などを通してますますお互いに緊密の度を深め、フランスがその中で中心的な役割の一端を担っている時代において、なおいっそうクローズアップされていると言えるでしょう。グローバル化がしきりに言われる現代にあって、英語だけではなく、さらにフランス語の知識を身につけることは、学生諸君にとっても貴重な知的財産の一つとなるはずです。フランス語はまた、明晰さと論理性に富む言語であると言われますが、フランス語の学習が論理的な思考力の育成と、英語圏とはひと味違った異文化理解のきっかけになればと考えています。

〈辞書と参考書〉

辞書　外国語を勉強する上での一番基本となる参考書は、何と言っても辞書に他なりません。最初からいきなり語彙の多い大型辞書を買うよりも、次に挙げるような「学習仏和辞典」で勉強を始めるのがいいでしょう。

「Le Dico 現代フランス語辞典」(白水社)　「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)

「クラウン仏和辞典」(三省堂)　など

参考書　講義で使うテキストは、あくまで授業に沿って使用するように作られているので、自習用には適しません。自分で分からないところを確認し、知識をさらに深めるのには、次のような文法参考書をおすすめします。

「新・リュミエール　フランス語文法参考書」(駿河台出版社)「大学で始めるフランス語」(駿河台出版社)　など

科目	フランス語基礎1	開講年次	1・2年	担当者	共通
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	この講義では、フランス語について、完結した初歩の読み、書き、話すというバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常生活に即した会話文をもとに楽しく学びながら、少し歯ごたえのある文章まで読みこなし、自分でも使えるような力を身につける仕組みです。講義は毎回新しい内容が出てきますので、休まずに出席することが前提となります。毎回欠かさずに予習・復習するのは当然のこと、授業中の活発な質問など、講義への一人一人の積極的な参加が望まれます。
2 教科書	藤田裕二他『新・東京―パリ、初飛行』(駿河台出版社)
3 参考文献	(辞書) 『Le Dico現代フランス語辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など (参考書)森本英夫、三野博司『新・リュミエール フランス文法参考書』(駿河台出版社)、山田秀男『大学で始めるフランス語』(駿河台出版社)
4 試験方法	最終講に定期試験を行います。試験は記述式とし、場合により聞き取りや発音を試験することもあります。その他、授業中に小テストを実施します。
5 成績評価基準	原則として、定期試験50パーセント、平常点(小テスト、レポート、受講状況等)50パーセントとして評価します。また、出席率が65パーセントに満たない学生は評価の対象になりません。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 講義方針、アルファベ
第2講 挨拶の表現 発音と綴り字
第3講 名前、国籍、職業を言う 動詞être の直説法現在
第4講 年齢を言う、家族を語る 名詞の性と数、不定冠詞
第5講 動詞avoirの直説法現在 否定文
第6講 好きなものを言う 第一群規則動詞の直説法現在、疑問文
第7講 持ち物を言う 指示形容詞、所有形容詞
第8講 友達について話す 形容詞の用法
第9講 人称代名詞の強勢形 まとめと復習(1)
第10講 尋ねる 疑問代名詞、疑問副詞
第11講 近い未来や過去のことを語る 動詞allerとvenirの直説法現在
第12講 時間、天候を言う 疑問形容詞
第13講 前置詞à, deと定冠詞の縮約、中性代名詞y, en
第14講 まとめと復習(2)
第15講 定期試験

科目	フランス語基礎2	開講年次	1・2年	担当者	共通
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	「フランス語基礎1」に引き続き、より高度なフランス語の運用能力の修得を目指します。「基礎2」ではさまざまな不規則動詞の活用、目的補語の用法から過去形(複合過去)までを学び、簡単な文章を読みこなせるレベルまで到達するようにします。前期と同様、休まず出席すること、毎回予習、復習を欠かさないことが重要です。内容は少し高度になりますが、むしろそれを楽しむようにして、真剣に取り組んでください。
2 教科書	藤田裕二他『新・東京―パリ、初飛行』(駿河台出版社)
3 参考文献	(辞書) 『Le Dico現代フランス語辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など (参考書)森本英夫、三野博司『新・リュミエール フランス文法参考書』(駿河台出版社)、山田秀男『大学で始めるフランス語』(駿河台出版社)
4 試験方法	最終講に定期試験を行います。試験は記述式とし、場合により聞き取りや発音を試験することもあります。その他、授業中に小テストを実施します。
5 成績評価基準	原則として、定期試験50パーセント、平常点(小テスト、レポート、受講状況等)50パーセントとして評価します。また、出席率が65パーセントに満たない学生は評価の対象になりません。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 講義方針 数量を表す 部分冠詞、数量の表現
第2講 紹介する 補語人称代名詞、不規則動詞savoir, connaître, pouvoir
第3講 一日を語る 代名動詞
第4講 不規則動詞voir, dire まとめと復習(1)
第5講 頼む、命令する 命令、義務を表す表現
第6講 未来を語る 直説法単純未来
第7講 過去を語る1 直説法複合過去(1)
第8講 直説法複合過去(2)
第9講 過去を語る2 直説法半過去、大過去
第10講 時制の一致 まとめと復習(2)
第11講 人や物について語る 関係代名詞、指示代名詞
第12講 比較する 比較級・最上級(1)
第13講 比較級・最上級(2)
第14講 まとめと復習(3)
第15講 定期試験

科目	フランス語応用1	開講年次	2-3年	担当者	共通
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	1年次に「フランス語基礎1, 2」を履修した学生を対象とします。「フランス語基礎」で未習となっていた部分の習得を当面の目標とし、簡単なフランス語の文章を読んだり、日常的な会話を行う能力を身につけながら、フランス語の文法についての知識を完成させることを目指します。授業は知識を積み重ねることが要求されるので、休まず出席することが前提となります。さらに授業の性質上、毎回予習と復習を行うことが必要です。
2 教科書	「エチュード フランス語文法」(白水社) 「パリの空の下」(第三書房)
3 参考文献	(辞書) 『Le Dico現代フランス語辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など (参考書)森本英夫、三野博司『新・リュミエール フランス文法参考書』(駿河台出版社)、山田秀男『大学で始めるフランス語』(駿河台出版社)
4 試験方法	最終講に定期試験を行います。試験は記述式とし、場合により聞き取りや発音を試験することもあります。その他、授業中に小テストを実施します。
5 成績評価基準	原則として、定期試験50パーセント、平常点(小テスト、レポート、受講状況等)50パーセントとして評価します。また、出席率が65パーセントに満たない学生は評価の対象になりません。

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 講義方針 復習と展望
第2講 受動態 関係代名詞
第3講 読解——パリの空の下セーヌは流れる
第4講 代名詞le, en, y 単純未来と前未来
第5講 読解——ロダン美術館(1)
第6講 読解——ロダン美術館(2)
第7講 半過去と大過去
第8講 疑問代名詞・関係代名詞lequel, laquelle etc.
第9講 読解——友達がパリにやって来た(1)
第10講 読解——友達がパリにやって来た((2)
第11講 単純過去と前過去
第12講 読解——オペラに行こう(1)
第13講 読解——オペラに行こう(2)
第14講 まとめと復習
第15講 定期試験

クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
薬全	藤澤　秀平（木１）

クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
薬全	小林　裕史（火１）

クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
薬全	米谷　巍洋（火１）

中国語

中国語について

日本と中国の地理的・文化的・歴史的な関係の深さからしても、現在および今後の国際政治の舞台における中国の重要さからしても、われわれが今、中国語を学ぶことは極めて深い意義が有りましょう。

中国とは、それ自体が巨大な混沌を内包した一つの宇宙的世界であるとしばしば言われています。そこでは、総面積 960 万平方キロメートルという広大な国土の広がりの中で、13 億を越える人間の、文字通りの多様きわまりない生活が営まれています。

われわれの学ぶ中国語とは、そのような多様性に満ちた空間の言語生活を統括する共通語としての中国語です。講義の中国語とは漢民族の、地域ごとに異なるさまざまな方言の基礎語彙・五四期以降の現代中国作家の作品に見られる語法体系をもとに形成された「普通話」と呼ばれる共通語なのです。

中国語を学ぶことによって、われわれの前には東アジア最大の面積と人口を有する隣邦の人々と意志疎通し、彼らの生活を理解するための道が開けてきます。それは同時にまた、われわれが自己の文化的風化土のアイデンティティーをふり返るための格好の契機ともなるでありましょう。

なお、中国語は漢字で表現されるとはいえ、外国語であることに変わりはありません。中国語には独自の音声組織があり、ローマ字システムによって発音が表記されます。使用される漢字は、常用文字の種類・意味用法・字体のいずれの点においても、日本語での用法とは大きな隔たりがあります。発音の習得には「声調」という高低アクセントの理解が不可欠となります。こうした点も十分に考慮したうえで、熱意と好奇心をもって中国語を履修してくださる方を歓迎します。

＜辞書・参考書＞

プログレッシブ中国語（小学館）
標準中国語辞典（白帝社）
50 音引き基礎中国語辞典（講談社）
簡明中日辞典（東方書店）
クラウン中日辞典（三省堂）
岩波中国語辞典（岩波）
（簡約）現代中国語辞典（光生館）
中日辞典（小学館）
精選日中・中日辞典（東方書店）
講談社中日辞典（講談社）

科目	中国語基礎1	開講年次	1・2	担当者	馮誼光 樋口昌敏
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を「聞く」「話す」「書く」ための基礎力をつけることを目標とします。 基礎1ではまず発音をよく聞いてまねること。中国語の発音はローマ字の発音表記(ピンイン)で表されるので、このピンインを理解し読めるようにすることが基礎1では特に重要になります。同時に自己紹介、挨拶や日常会話を通して、文法の基礎を学んでいきます。
2 教科書	中国語ポイント42 本間史 孟広学 白水社 2100円
3 参考文献	中日辞典 中国語はじめの一歩 木村英樹著 ちくま新書 中国語入門Q&A 相原茂他著 大修館 中国語学習Q&A 相原茂他著 大修館
4 関連科目	中国語基礎2 中国語応用1・2
5 試験方法	定期試験 記述式(発音、ヒアリングを課すこともある)
6 成績評価基準	定期試験(50%) 平常点(小テスト、レポート、受講態度など)(50%) 原則として出席率65%に満たない場合は評価の対象としない
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 中国語とは? 中国語の発音、声調と母音
第2講 中国語の発音、複合母音と子音
第3講 中国語の発音、子音と鼻母音
第4講 中国語の発音、軽声、声調変化、総まとめ
第5講 1課、中国語で言ってみよう「私は・・・です」
第6講 2課 「私は・・・する」と指示代名詞、疑問詞
第7講 3課 「彼は・・・をもっている」と形容詞文
第8講 3課 反復疑問 4課「ここ」と「あそこ」
第9講 4課 「彼女は・・・にいます」、動詞の重ね型
第10講 5課 数の数え方を覚えよう
第11講 5課 量詞の使い方を覚えよう
第12講 6課 「ここには・・・があります」
第13講 6課 「・・・しにいく」と「・・・しにくる」
第14講 6課 日付、曜日、時刻の言い方を学ぼう
第15講 定期試験

科目	中国語基礎2	開講年次	1・2	担当者	馮誼光 樋口昌敏
		開講期	後期		
		単位数	1		

1 授業概要	基礎2では、基礎1で発音を習得したことを前提として、辞書を引きながらならば平易な中国語文章を自力で読めるように、文法の基礎を学び終えることを目標とします。 発音についてはCDの他、ラジオ、テレビなども利用して、十分に復習をして授業にのぞんでください。辞書は各担当者の指示にしたがって、夏休みによく検討してそろえるとよいでしょう。基礎1に比べ文法事項は量も内容も増えていきます。 予習復習をきちんとおこなって授業に参加してください。
2 教科書	中国語ポイント42 本間史 孟広学 白水社 2100円
3 参考文献	中日辞典 中国語はじめの一歩 木村英樹著 ちくま新書 中国語入門Q&A 相原茂他著 大修館 中国語学習Q&A 相原茂他著 大修館
4 関連科目	中国語基礎1 中国語応用1・2
5 試験方法	定期試験 記述式(発音、ヒアリングを課すこともある)
6 成績評価基準	定期試験(50%) 平常点(小テスト、レポート、受講態度など)(50%) 原則として出席率65%に満たない場合は評価の対象としない
7 授業評価実施方法 8 オフィスアワー	

講義計画・テーマ・講義構成

第1講 7課 「私は･･･したい」、介詞「在」「従」
第2講 7課 完了の表現
第3講 8課 可能表現「私は･･･することができる」
第4講 8課 「･･･したことがある」、時間の長さ
第5講 9課 「君に電話します」介詞「給」「対」
第6講 9課 「今授業中です」進行と持続の表現
第7講 10課 結果補語「私は食べ終えました」
第8講 10課 状態程度の表現「君は歌がうまいね」
第9講 11課 方向補語「彼女は帰っていきました」
第10講 11課 「ビールを冷蔵庫に入れました」
第11講 11課 比較文「彼はわたしより年下です」
第12講 12課 可能補語
第13講 12課 二重目的語「お茶を一杯ください」
第14講 12課 「是･･･的」「私は昨日着いたのです」
第15講 学年末試験

薬基礎担当者

クラス名	担当者名
薬学部全(1年)	馮誼光
薬学部全(2年)	樋口昌敏

科目	中国語応用1	開講年次	2	担当者	村田浩
		開講期	前期		
		単位数	1		

1 授業概要	中国語基礎1・2を習得し、中国語の発音と文法の基礎をマスターした人を対象に、よりすすんだコミュニケーション能力を養成することを目標とする。会話式の教材による対話・反復練習、文法事項の説明、練習問題、ドリル、作文などを通して、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための総合的な力を身につけることを目標とする。あわせて、中国の文化や暮らしについても理解を深めていきたいと思います。
2 教科書	「現代中国　走馬看花　新訂版」三＊正道　楊光俊　朝日出版社　2000円
3 参考文献	中日辞典 中国語はじめの一歩　木村英樹著　ちくま新書 中国語入門Q&A　相原茂他著　大修館 中国語学習Q&A　相原茂他著　大修館
4 関連科目	中国語基礎1、2　中国語応用2
5 試験方法	定期試験 筆記試験（発音・ヒアリングを課すこともある）
6 成績評価基準	定期試験（50%） 平常点（小テスト、レポート、受講態度など）（50%） 出席率65%に満たない場合は原則として評価の対象としない
7 授業評価実施方法	
8 オフィスアワー	

講義計画・テーマ・講義構成

第1講「ファッションの話」、発音（声母・韻母・声調）のチエック、数詞と量詞を思い出そう

第2講「ファッションの話」、「的」の用法と助動詞の用法を思い出そう

第3講「ファッションの話」、完了実現を表す「了」と経験を表す「過」

第4講「インターネットの話」、介詞（前置詞）「従」と「跟」

第5講「インターネットの話」、持続表現の「着」

第6講「インターネットの話」、ネット用語を中国語で覚えよう

第7講「交通の話」、「どうやって」と「なぜ」の言い方を思い出そう

第8講「交通の話」、時間の長さの表現

第9講「交通の話」、単純方向補語と複合方向補語、「就」と「才」

第10講「食の話」、結果補語「俺は酔っ払ったぞ」

第11講「食の話」、可能補語「もう食べきれません」

第12講「食の話」、さまざまな疑問詞の用法に注意しよう

第13講「レジャーの話」、「有」で導かれる後置修飾語の文

第14講「レジャーの話」、様態補語

第15講　定期試験

薬応用担当者

クラス名	担当者名
薬学部全	村田浩